＜様式2＞

京丹後市教育振興計画
施策評価・進捗管理調書（内部評価結果）

担当課	担当課長
学校教育課	上羽　正行
生涯学習課	松本　優
こども未来課	金子　隆行
子育て支援課	野村　亜紀子

重点目標	4	豊かな人間性・社会性を育みます
基本的方針	学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切にする豊かな人間性・社会性を育みます。 また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。	

1．施策の方向性　PLAN

1．人を思いやり、尊重する社会性の育成	① 保幼小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。 ② 生命を大切にする心や他人を尊重する心などを育むとともに、新たに教科となった道徳科をはじめ、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。 ③ 地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。 ④ 各学園（中学校区）において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取組みを協働して進めます。 ⑤ 情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や保護者、学校支援ボランティア等と連携し、系統的かつ一貫性のある指導体制を整備します。
2．生徒指導体制、教育相談体制の充実	① 子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や内面理解の充実を図ります。 ② 学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。 ③ 京丹後市いじめ防止等基本方針に基づき、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進します。 ④ 不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰と社会的自立を支援するため、教育支援センター「麦わら」の相談・支援体制の充実及び機能強化を図ります。
3．家庭・地域の教育力の向上	① 各学園（中学校区）の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。 ② 家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切にする気持ちなどを養う最も重要な役割を担う場ととらえ、PTA等と連携しながら、乳幼児期から思春期（中学生）までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。 ③ 子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、家庭子ども相談室による相談や関係機関の連携による支援を実施します。また、家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。 ④ 子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動の充実を図る。 ⑤ 子どもたちの放課後の居場所づくりのため、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行うとともに、地域における子どもたちの活動拠点を確保するための事業の拡充を進めます。 ⑥ 保護者の就労状況の多様化や家庭環境の変化に伴い、放課後における児童の健全育成を図るため実施している放課後児童健全育成事業の利用が増加しています。利用ニーズを的確に把握するとともに、サービス体制や施設環境の整備を推進し、待機児童ゼロを継続します。また、青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。
4．芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成	① 子どもが生涯にわたって自然や歴史、仲間、多様な人々と関わり合う体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。 ② 学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取り組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市いじめ防止等基本方針	国、府、学校、地域社会、家庭及びその他の関係者が連携のもと、社会総がかりでいじめの問題の克服に向けて取り組むとともに、いじめ防止対策推進法第12条の規定に基づき、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するために策定	平成26年6月	計画期間の定めなし	策定から3年経過を目途に見直し（平成30年度見直し）

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力をすべての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	
京丹後市文化芸術振興計画	市民が主体となって文化芸術活動に取り組み、楽しみを感じられる文化芸術のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために策定	令和5年3月	令和5年度～令和14年度	

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN　DO　※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照　CHECK　ACT

1. 人を思いやり、尊重する社会性の育成		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 保幼小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。 ② 生命を大切にする心や他人を尊重する心などを育むとともに、新たに教科となった道徳科をはじめ、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。 ③ 地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。 ④ 各学園（中学校区）において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取組みを協働して進めます。 ⑤ 情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や保護者、学校支援ボランティア等と連携し、系統的かつ一貫性のある指導体制を整備します。					
1 小学校丹後学等教育活動実践事業《再掲》 地域の学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、将来の自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。 また、教育課題の解決に向けた教職員の研究事業に取り組むとともに、修学旅行における引率教員の施設入場料等に係る経費を支援する。	学校教育課	－	－	－	現状維持
2 中学校丹後学等教育活動実践事業《再掲》 府の研究指定を受け、教員の指導力向上等に取り組むとともに、地域学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、将来の自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。 また、教育課題の解決に向けた教職員の研究事業に取り組むとともに、修学旅行における引率教員の経費を支援する。	学校教育課	－	－	－	現状維持

2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や、内面理解の充実を図ります。 ② 学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。 ③ 京丹後市いじめ防止等基本方針に基づき、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進します。 ④ 不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰と社会的自立を支援するため、教育支援センター「麦わら」の相談・支援体制の充実及び機能強化を図ります。					
3 いじめ防止啓発推進事業 「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づき、市が一体となっていじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進する、いじめ防止対策等専門委員会及びいじめ問題対策連絡会議を設置するほか、いじめ・不登校の防止等の取組において早期発見・解決に向けSNS相談窓口を設置し、児童生徒が相談しやすい環境づくりを推進する。	学校教育課	1,761	－	－	終了・廃止
4 いじめ防止対策等運営事業 「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づき、市が一体となっていじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、いじめ防止対策等専門委員会及びいじめ問題対策連絡会議を設置する。	学校教育課	237		－	終了・廃止
5 いじめ・不登校防止対策等総合推進事業 「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づくいじめ防止等の啓発活動を実施し、市と市民が一体となっていじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。	学校教育課	－	1,707	29,940	統合（整理）
6 指導主事設置事業 学校教育及び就学前教育の充実を図るため、指導主事4人を配置し、専門的事項に関する指示・指導を行う。	学校教育課	13,159	15,919	17,230	現状維持
7 就学支援・教育相談事業 児童生徒の問題行動、心身の悩みや不登校等に対応するため、臨床心理士による教育相談を実施するとともに、児童生徒を指導、支援する教職員に対し、各種研修を行う。 また、児童生徒の特性に応じた教育支援を適切に行うため、発達検査を実施し、児童生徒の特性の理解や支援の手がかりとする。	学校教育課	852	436	179	現状維持
8 教育支援ｾﾝﾀｰ管理運営事業 心理的要因等による不登校又はその傾向にある児童生徒に対し、所属校や保護者との信頼関係のもと、集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充及び基本的生活習慣の改善など、個々の状況に応じて段階的に支援することにより、将来の社会的自立を目指す。	学校教育課	13,146	15,942	14,997	現状維持
9 小学校ｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾀｰ等設置事業《再掲》 児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細かな指導に努め、円滑な授業を実施するため、スクールサポーター（介護職員）を配置するとともに、教育活動の推進と学校経営の安定を図るため、教員資格のあるスクールサポーター（講師）を配置する。	学校教育課	－	－	－	現状維持

2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実	決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績） 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
10 中学校ｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾀｰ等設置事業《再掲》 学校教育課 生徒一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細かな指導に努め、円滑な授業を実施するとともに保幼小中一貫教育の推進を図るため、スクールサポーターを配置する。 また、生徒のための心の相談員や部活動指導員、適正配置による通学バス等の事務の増加に対応するための事務職員をスクールサポーターとして配置する。	－	－	－	現状維持

3. 家庭・地域の教育力の向上	決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績） 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 各学園（中学校区）の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。 ② 家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切にする気持ちなどを養う最も重要な役割を担う場ととらえ、PTA等と連携しながら、乳幼児期から思春期（中学生）までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。 ③ 子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、家庭子ども相談室による相談や関係機関の連携による支援を実施します。また、家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。 ④ 子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動の充実を図る。 ⑤ 子どもたちの放課後の居場所づくりのため、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行うとともに、地域における子どもたちの活動拠点を確保するための事業の拡充を進めます。 ⑥ 保護者の就労状況の多様化や家庭環境の変化に伴い、放課後における児童の健全育成を図るため実施している放課後児童健全育成事業の利用が増加しています。利用ニーズを的確に把握するとともに、サービス体制や施設環境の整備を推進し、待機児童ゼロを継続します。 また、青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。				
11 こども家庭相談室事業 子育て支援課 「こども家庭センター」を設置し、要保護児童対策地域協議会等と連携の下、育児不安・養育力低下・不登校・ヤングケアラーなどの支援が必要な子どもや家庭を早期に発見し、相談や適切な支援につなげることで、児童虐待の未然防止に努めるとともに児童の健やかな育成と児童福祉の向上を図る。	2,172	5,132	6,691	拡大
12 家庭教育事業 生涯学習課 全ての教育の出発点である家庭教育を推進するため、子どもの発達段階に即した学習及び交流機会の充実に努めるとともに、PTA活動を支援する。	1,407	1,450	1,400	現状維持
13 放課後児童健全育成事業 こども未来課 保護者の就労や疾病その他の理由により、学校の放課後、長期休業期及び土・日曜日等に適切な保育が受けられないと認められる家庭の小学校の児童に対し、適切な遊びや生活の場を与えることにより、児童の健全な育成と子育て支援の推進を図る。	266,042	287,613	324,876	現状維持
14 放課後児童健全育成事業【繰越】 こども未来課 口大野放課後児童クラブの利用児童の増加に伴い、トイレの利便性の向上を図るため、トイレの増設等を行う。 また、国の補助金を活用し、放課後児童クラブの送迎用バスに安全装置を設置する。	5,245	－	－	
15 放課後こども教室事業 こども未来課 児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、小学校の余裕教室を利用した放課後こども教室を開設する。	778	818	862	現状維持

4. 芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成	決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績） 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 子どもが生涯にわたって自然や歴史、仲間、多様な人々と関わり合う体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。 ② 学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取り組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。				
16 文化芸術事業 生涯学習課 令和5年度に策定した「文化芸術振興計画」に基づき、だれもが文化芸術に親しみ、人が輝き、豊かで活力ある生活が送れるよう、市民等が相互に連携し、一体となって文化芸術によるまちづくりを推進するため、各種文化芸術活動を支援する。	35,334	36,003	32,460	現状維持

上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業	決算額（単位：千円）			事務の改善
事務事業名称・事業内容（実績） 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
17 こども未来まちづくり審議会事業《再掲》 こども未来課 「第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画」の進捗管理、評価並びに「第3期京丹後市子ども・子育て支援事業計画」の素案ほか、子育て支援に関する事案を審議する。	－	－	－	現状維持
計	340,133	365,020	428,635	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切にする豊かな人間性・社会性を育みます。 また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。							
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
	不登校児童の出現率＜小学校＞	—	5人/0.16%	H25	22人/0.95%	R6	減少させる	R6
	不登校生徒の出現率＜中学校＞	—	47人/2.49%	H25	61人/5.36%	R6	減少させる	R6

目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
いじめの認知件数/認知率＜小学校＞	—	386件/12.7%	H25	316件 13.8%	R6	減少させる	R6
いじめの認知件数/認知率＜中学校＞	—	189件/10.2%	H25	30件 2.6%	R6	減少させる	R6
認知されたいじめの年度内解消率＜小学校＞	—	357件/92.5%	H25	87.3%	R6	100%	R6
認知されたいじめの年度内解消率＜中学校＞	—	181件/95.8%	H25	86.7%	R6	100%	R6
いじめはいけないことだという意識がある児童の割合＜小学生＞	%	97.0 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	96.5%	R6	増加させる	R6
いじめはいけないことだという意識がある生徒の割合＜中学校＞	%	90.9 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	96.3%	R6	増加させる	R6
学校のきまりや規則を守る意識がある児童の割合＜小学生＞	%	93.8 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	91.4%	R6	増加させる	R6
学校のきまりや規則を守る意識がある生徒の割合＜中学校＞	%	90.8 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	94.8%	R6	増加させる	R6
人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童の割合＜小学生＞	%	94.4 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	97.9%	R6	増加させる	R6
人の気持ちが分かる人間になりたいと思う生徒の割合＜中学生＞	%	95.2 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	96.2%	R6	増加させる	R6
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合＜小学生＞	%	94.0 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	97.9%	R6	増加させる	R6
人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合＜中学生＞	%	93.2 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	96.1%	R6	増加させる	R6
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合＜小学生＞	%	－		79.4%	R6	増加させる	R6
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合＜中学生＞	%	－		79.2%	R6	増加させる	R6
住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合＜小学生＞	%	－		86.2%	R6	維持する	R6
住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合＜中学生＞	%	－		75.8%	R6	維持する	R6
放課後児童クラブ待機児童数ゼロの継続	人	－		0	R6	0	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題［基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか］

CHECK ACT

進捗状況区分	評価	令和6年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる ○ 予定どおり進んでいる ▲ 少し遅れている × 大幅に遅れている	○	《不登校児童生徒の出現率》 不登校児童生徒の出現率は、全国的に増加している。本市においては令和5年度急増（全国と比較すると緩やかな増加）したが、令和6年度は前年度と比較して小中学校ともに減少した。校内フリースクール等の物的な居場所づくりやSC、SSWをはじめとした教職員とのつながり、授業改善等による心理的な居場所づくりの成果であるとも考えられる。また、保幼小中一貫教育の推進による各校園での未然防止を重点とした取組や確実な情報の共有等によって、不登校解消に一定の成果は上がっている。今後も未然防止の取組推進が更に必要である。

		令和6年度成果と今後の課題
		《いじめの認知件数/認知率》 いじめの認知率は、小・中学校でほぼ同等。引き続きいじめを積極的に認知し、各校で設置しているいじめ防止等組織において些細な兆候も見逃さない組織的な対応を行うとともに、認知件数・認知率のみにとらわれず、丁寧な指導を継続していく等いじめ防止対策の一層の充実のための取組を推進する。 《認知されたいじめの年度内解消率》 令和5年度の結果と比較すると、解消率が小中学校ともに上がる結果となった。令和6年度の第2回いじめ調査の認知事象に基づく追跡調査結果の未解消事象については、調査後解消するまで丁寧な見守りと指導を継続している。 今後も各校のいじめ防止基本方針に基づいた実態把握や情報共有、組織的な対応を徹底し、早期解消のための取組に努める。 《いじめはいけないことだという意識がある児童生徒の割合》 「いじめはいけないことだ」という意識がある児童生徒の割合は、年間3回のいじめ調査や追跡調査、児童生徒への丁寧な指導により、令和4年度までは、過去5年間で小中学校ともに95%以上を占めていたが、令和5年度には中学校において95%を下回った。しかし、令和6年度を見ると、小中学校ともに95%を上回る結果となった。 今後も児童生徒の豊かな心を育成するため、道徳科をはじめ、学校の教育活動全体を通じた取組の充実を図る必要がある。 《学校のきまりや規則を守る意識がある児童生徒の割合》 小中学校とにも学校のきまりや規則を守る意識がある児童生徒の割合は、高い水準で推移している。引き続き各校園の丁寧な指導及び保幼小中一貫教育による一貫性のある指導等を進める中で、言われたことを守るだけでなく、自ら考え、理解し、行動に移す能力を育成していく必要がある。 《人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合》 小中学生ともに高い水準で推移しており、小学校においては増加している。教育活動全体を通した丁寧な指導により、人の気持ちを理解して行動したり、発言したりすることの重要性が確実に身に付いてきている。今後も個別の配慮児童生徒等への丁寧な指導が必要である。 《人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合》 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合は、小中学校ともに高い水準で推移している。教育活動全体を通した丁寧な指導により、社会貢献等への意識が確実に身に付いてきている。 今後更に高めていくため、ボランティア活動など体験学習等の充実を図る必要がある。 《自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合》 令和5年度の結果と比較すると、小学校は維持、中学校は増加している。日々の関わりの中で、児童生徒のよさを見つけ、ほめていることが児童生徒に伝わるようにほめるなど、意図的な働きかけにより、包み込まれているという感覚とともに自尊感情や自己肯定感の基盤を育みたい。そのために、授業づくりと学級経営、その他全ての教育活動の場で、一人ひとりに目を向けた教育活動を推進していく必要がある。 《住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合》 小学校中学校ともに増加した。全国の平均と比べると、京丹後市の結果が大きく上回っている。新型コロナウイルス感染症が5類となり、地域の行事が元通り実施されたことが影響していると考える。 令和6年度には「丹後学」のモデルカリキュラム作成部会で中学校のカリキュラムの在り方を考え、作成した。今後は、その波及を推進することで、地域へ愛着と誇りを育て、さらに自己の生き方・あり方について考えを広げたり深めたりすること、問題解決能力や多様な他者と協働する力を育てていく必要がある。 《放課後児童クラブ待機児童数ゼロの継続》 社会環境の変化に伴い放課後、家庭で適切な保育が受けられない家庭が増加していることもあり利用者が増加傾向にある。既存の施設や学校の空き教室を活用し、国の基準に沿った保育室を確保するとともに、支援員の確保と併せ、受け入れ態勢の整備に努めていきたい。

5. 今後の施策展開の考え方（令和6年度での主な取組）

ACT

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	子どもたちの自尊感情を高め、豊かな人間性・社会性を育むため、保幼小中一貫教育による交流学習や児童会・生徒会活動などの集団活動を充実させるとともに、道徳科をはじめキャリア教育等学校の教育活動全体を通じた系統的で一貫性のある指導の更なる充実を図る。
	2	いじめや不登校など、児童生徒の多様な課題に対応するため、臨床心理士による教育相談体制を拡充するとともに、教育支援センターの相談支援機能（アウトリーチも含）を更に高めるとともに、多様な学びに対応できるよう、校内フリースクールを整備し、個の課題やニーズに応じたきめ細かな相談支援体制の整備・強化を図る。
	3	地域の子ども教室では、体験活動だけでなく、教室間での情報交流についても支援しながら教室活動の維持、拡充に努める。青少年健全育成会では、各地域ごとに子どもの体験活動を実施するほか、あいさつ運動や夏休みパトロールなどで地域の子どもの見守り活動を継続する。また放課後こども教室事業は、今後も継続して運営できる体制の確保に努める。
	4	子どもたちの芸術や自然を愛する心豊かな感性を育むため、教育活動等における文化体験や芸術鑑賞など、国や府の様々な事業や学校支援ボランティア等を活用し、伝統文化や芸術等に親しむ機会を充実させるとともに、学校図書の充足率向上を図る。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	1,707千円	1,773千円	66千円	96.2 %	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	目	02 事務局費				1,194千円		
	事業	14 いじめ･不登校防止対策等総合推進事業						
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実						

主な財源

府補　子どもの教育のための総合交付金（1/2）　331千円

目的

「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づき、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、いじめ防止対策等専門委員会及びいじめ問題対策連絡会議を設置する。
また、いじめ・不登校の防止等の取組において早期発見・解決に向け1人1台端末を利用をした匿名相談窓口等を設置し、児童生徒が相談しやすい環境づくりを推進する。

主要な事務・事業の概要

○いじめ防止対策等専門委員会経費（委員数：5人）　139千円

いじめの防止等のための対策に関する事項や重大ないじめ事象が発生した場合に調査を行うため、弁護士、医師、臨床心理士、学識経験者からなる「いじめ防止対策等専門委員会」を設置し、会議を開催するなど、それぞれの専門的な立場からいじめ事象に対する指導・助言を担当の指導主事を含む事務局が受け、その内容をとりまとめ各小中学校へ周知した。

開催日：第1回　令和6年11月30日（土）
　　第2回　令和7年3月18日（月）

・報酬　112千円
・費用弁償　27千円

○いじめ問題対策連絡会議経費（委員数：21人）　14千円

保育所、こども園及び小中学校におけるいじめの防止対策や早期発見、いじめへの対処等に関する協議を行うため、「いじめ問題対策連絡会議」を設置し、教育、福祉、医療、保健、警察及び司法等の関係機関との連携を図った。

開催日：令和6年6月6日（木）

・報償費（委員謝金）　支払対象3人　12千円
・旅費（費用弁償）　2千円

○いじめ防止講演会（講師謝金）　参加者：40人　62千円
○いじめ防止街頭啓発（消耗品費）　1千円
○いじめ相談専用電話設置（通信運搬費）　36千円
※いじめ相談件数：1件
○市こどもSNS（LINE）相談窓口の設置（令和6年4月～9月）　792千円
・システム保守委託料　330千円
・システム使用料　462千円
※相談件数：12件（いじめの相談：0件）
○１人１台端末見守り相談（STANDBY）窓口設置（令和6年9月～令和7年3月）
・システム使用料　663千円
※相談件数：958件（いじめの相談：167件）

成果・課題

○専門的な立場から指導・助言を受けることで、学校に対していじめ防止等のための取組やいじめ事象の解決に向けた支援を行うことができた。
○いじめは、どの子ども、どの学校でも起こり得ることを踏まえ、いじめの未然防止及び早期発見に向けた取組を推進する必要がある。
○1人1台端末を用いた相談窓口を設置することで、いじめやそれ以外の幅広い内容についての相談を数多く受けることができた。
○各種相談窓口の周知を積極的に行うなど、引き続き、相談しやすい環境づくりに努める必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	15,919千円	16,099千円	180千円	98.8 %	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	目	02 事務局費				15,242千円		
	事業	03 指導主事設置事業						
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実						

主な財源

目的

学校教育及び就学前教育の充実を図るため、指導主事4人を配置し、専門的事項に関する指示・指導を行う。

主要な事務・事業の概要

4人の地域担当の指導主事を各地域公民館に配置し、学校経営や教育内容について、その専門性と見識や経験を活かした指導、助言を行い、学校現場における課題解消に向けて対応した。

【地域担当指導主事　4人】
○会計年度任用職員任用経費　15,716千円

○市内業務移動に係る費用弁償　198千円

○消耗品費（ファイル等事務用品）　5千円

【地域担当指導主事配置状況】

配置先	配置人数	所管町域
峰山地域公民館	1人	峰山町
大宮地域公民館・久美浜地域公民館	1人	大宮町、久美浜町
網野地域公民館	1人	網野町
丹後地域公民館・弥栄地域公民館	1人	丹後町、弥栄町

成果・課題

学校経営、教育内容に対する専門知識や豊かな経験を基にした指導や助言を行うことにより、不登校を含めた生徒指導上の諸問題への対応など、複雑多様化する教育現場の諸課題の克服に資することができた。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		436千円	445千円	9千円	97.9 %	部	教育委員会事務局
項	01 教育総務費					(参考)当初予算額	課	学校教育課
目	02 事務局費					445千円		
事業	07 就学支援･教育相談事業							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							

目的

児童生徒の問題行動、心身の悩みや不登校等に対応するため、臨床心理士による教育相談を実施するとともに、児童生徒を指導、支援する教職員に対し、各種研修を行う。
また、児童生徒の特性に応じた教育支援を適切に行うため、発達検査を実施し、児童生徒の特性の理解や支援の手がかりとする。

主な財源

主要な事務・事業の概要

各小中学校において臨床心理士による児童生徒や保護者との教育相談を実施し、当該児童生徒の通う学校の教職員へのアドバイスを行った。また、児童生徒の不登校などの学校不適応の未然防止や解消に向けての対応の在り方について、各小中学校の教育相談担当者や心の教室相談員などを対象に研修を実施した。

○教育相談事業
- 相談場所　大宮庁舎及び各小中学校
- 教育相談の実施者　臨床心理士（教育委員会事務局学校教育課所属）
- 実施回数　毎月2回（大宮庁舎）及び適宜（各小中学校）
  合計168回実施
- 相談件数　延べ189件

○研修事業
- 教育相談担当者研修　教職員22人　年3回
- 事例研修　教育支援部会などにて適宜実施（各小中学校）

○教育支援に係る発達検査の実施　436千円
- 消耗品費　179千円
  知能検査記録用紙（WISC-Ⅳ、日本版KABC-Ⅱ）ほか
- ソフトウェア使用料　257千円
  WISC-Ⅴ検査コンプリートセット（4台）

成果・課題

○臨床心理士による発達検査の実施、教育相談、教職員研修を実施することにより、適切な支援へとつながり、児童生徒の学校適応が推進された。
○様々な取組の成果により、小中学校ともに不登校出現率がやや減少（R5年度比：小学校2割減、中学校0.6割減）しており、効果のあった取組について分析を進め、それらの取組を重点的に実施していく必要がある。
○学校活動が平常化し、子どもたちの交流が活発になる中、コミュニケーションスキルを高めるための教育プログラムの実施や、相談窓口の周知徹底などの対応を確実に進めていく。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		15,942千円	16,048千円	106千円	99.3 %	部	教育委員会事務局
項	01 教育総務費					(参考)当初予算額	課	学校教育課
目	02 事務局費					15,225千円		
事業	08 教育支援ｾﾝﾀｰ管理運営事業							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							

目的

心理的要因等による不登校又はその傾向にある児童生徒に対し、所属校や保護者との信頼関係のもと、集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充及び基本的生活習慣の改善など、個々の状況に応じて段階的に支援することにより、将来の社会的自立を目指す。

主な財源

府補	子どもの教育のための総合交付金（1/2）	1,041千円
府補	教育支援体制整備事業費補助金（1/3）	19千円
繰入金	ふるさと応援基金繰入金	8,000千円

主要な事務・事業の概要

不登校やその傾向にある児童生徒について、個々の状況をふまえ、多様な学びの機会をとおして、社会的自立の基盤となる自己肯定感や自己有用感が育める居場所として教育支援センター「麦わら」を設置

○会計年度任用職員任用経費（6人分）	15,351千円
○消耗品費	111千円
○管理経費（燃料費、修繕費）	144千円
○役務費（通信運搬費、自動車登録手数料、損害保険料ほか）	148千円
○使用料及び賃借料（コピー機借上料）	163千円
○備品購入費（図書）	20千円
○公課費（自動車重量税）	5千円

＜教育支援センター運営体制・実績＞
- 配置人数　6人 教育支援センター支援員（会計年度任用職員）
- 配置体制　1日当たり3～4人（各支援員　週3日　1日7時間）
- 通所児童生徒数　17人　（小学生8人、中学生9人）
- 相談延べ件数　858件
- 来所延べ人数　1,119人
- 延べ訪問回数　36回

年度	R2	R3	R4	R5	R6
通所利用登録者	21人	15人	13人	17人	17人

教育支援センター（峰山町杉谷）の開設は、平成25年1月31日。

成果・課題

○教員経験の豊富な指導員による児童生徒等への学習及び生活の支援や、スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーのカウンセリングなどにより、個々のケースに応じた支援を行い、学校復帰や進路実現等の社会的自立を図ることができた。
○市内の中学校の不登校生徒が増加していることから、府配置のスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー等とも連携し、支援センターの中核機能を果たす上で個々の状況をアセスメントするとともにアウトリーチ型の訪問等を各校へ行うなど、支援を確実かつ的確に行う必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	こども部
	款	03 民生費	5,132千円	5,634千円	502千円	91.0 %		
	項	02 児童福祉費				(参考)当初予算額	課	子育て支援課
	目	01 児童福祉総務費				7,784千円		
	事業	02 こども家庭相談室事業						
基本計画		25 子育て支援の総合的な推進						

目的

「こども家庭センター」を設置し、要保護児童対策地域協議会等と連携の下、育児不安・養育力低下・不登校・ヤングケアラーなどの支援が必要な子どもや家庭を早期に発見し、相談や適切な支援につなげることで、児童虐待の未然防止に努めるとともに児童の健やかな育成と児童福祉の向上を図る。

主な財源

国補	子ども･子育て支援交付金（2/3）	3,267千円
府補	子ども･子育て支援交付金（1/6）	816千円

主要な事務・事業の概要

○会計年度任用職員任用経費（報酬、共済費等） 4,779千円

こども家庭支援員（1人／社会福祉士） 令和6年8月～令和7年3月

サポートプラン作成支援員（1人） 令和6年4月～令和7年3月

○研修旅費

要保護児童対策調整機関調整担当者研修：1人参加 109千円

令和6年5月～7月 計8回（京都市）

○需用費 97千円

普及啓発用台紙、事務用品等 29千円

公用車燃料費、修繕料（1台分） 68千円

○通信運搬費 137千円

携帯電話利用料（家庭相談員緊急対応用 3台分）

○負担金 10千円

京都府家庭相談員連絡協議会負担金

【京丹後市児童相談等取扱実件数】

種別	詳細	件数	種別	詳細	件数
養護	児童虐待	289	育成	不登校	10
	その他	90		適性・育児等	5
保健・障害	保健/発達障害	8	合 計		424
その他	その他	22			

【主な啓発活動等】

・サポートプラン作成（母子保健＋児童福祉） 45件

・ショッピングセンターマインでの街頭啓発（児童虐待、ヤングケアラー）

啓発グッズ 300セット配布

・ヤングケアラー相談カード配布（市内小・中・高等学校等）2,200枚

・講演会の実施（zoom/集合型） 2回 延べ241人参加

小・中・高等学校、こども園、保育所、福祉サービス事業所 職員等

成果・課題

○令和6年4月に「こども家庭センター」を設置したことで、母子保健と児童福祉間でのよりスムーズな連携ができるようになり、協働して支援の必要な子どもや家庭へ対応することができた。
○ヤングケアラー学校調査を通じて市内小中学校と情報共有や連携を行ったほか、講演会や相談カードの配布、民生児童委員協議会への出前講座など普及啓発活動に取り組んだ。
○支援が必要な世帯に対する具体的支援の整備が課題である。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	1,450千円	1,473千円	23千円	98.4 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	02 社会教育推進費				1,642千円		
	事業	04 家庭教育事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

全ての教育の出発点である家庭教育を推進するため、子どもの発達段階に即した学習及び交流機会の充実に努めるとともに、PTA活動を支援する。

主な財源

府補	家庭教育支援基盤形成事業補助金（2/3）	643千円

主要な事務・事業の概要

○家庭教育支援チーム事業

子育てに悩みや不安を抱える親に対する子育て支援、学習機会の充実を図るため、子育て経験者や専門的知識・経験を持つ者などで「家庭教育支援チーム」を組織し、子育て交流会などの支援活動を行う。

事 業	回数	延べ参加者数
子育ておしゃべり交流会	14回	402人
「手紙で結ぶ家族の絆」事業	12回	330人
子育てROOM	8回	203人
中学生と赤ちゃんのふれあい事業	2回	208人
高校生と赤ちゃんのふれあい交流	4回	112人
合 計	40回	1,255人

※広報紙発行：1回

○子育て講座

事 業	回数	延べ参加者数
乳幼児期子育て講座	4回	130人
就学前、思春期子育て講座	5回	382人
親子リフレッシュ体操教室	20回	230人
合 計	29回	742人

○家庭教育支援チーム事業 327千円

子育て交流会等ファシリテーター謝金 327千円

各地域公民館に家庭教育支援チーム（6チーム）、子育てサポーター（51人）を配置

○子育て講座等の実施 648千円

※乳幼児講座4回、子育て（学童・思春期）講座5回、親子体操教室20回

・子育て講座等講師謝金 166千円

・親子体操教室講師謝金 120千円

・消耗品費等事務費 362千円

○京丹後市PTA協議会補助金 475千円

市研究大会の開催、各種研修会の参加、安全会掛金等への助成

成果・課題

○子どもの発達段階に応じた子育てに関する学習機会を提供し、子どもとのコミュニケーションの大切さや、生活習慣を身に付けさせるための家庭の役割の重要性などについて啓発することができた。
○乳幼児とその保護者、中学生、高校生、子育てサポーターの異世代間交流の中で、命の尊さを学ぶ機会となった。
○課題を関係機関と情報共有し、より効果的な学習会等の実施を進める必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	03 民生費		287,613千円	288,152千円	539千円	99.8 %	部	こども部
項	02 児童福祉費					(参考)当初予算額 317,692千円	課	こども未来課
目	02 子育て支援費							
事業	02 放課後児童健全育成事業							
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進							

目的

保護者の就労や疾病その他の理由により、学校の放課後、長期休業期及び土・日曜日等に適切な保育が受けられないと認められる家庭の小学校の児童に対し、適切な遊びや生活の場を与えることにより、児童の健全な育成と子育て支援の推進を図る。

主な財源

使用料	公有財産使用料、放課後児童健全育成事業利用料	34,752千円
国補	子ども･子育て支援交付金（1/3）	27,989千円
府補	子ども･子育て支援交付金（1/3）	27,989千円
府補	きょうと地域連携交付金（放課後児童ｸﾗﾌﾞ休日開所事業）	1,300千円
繰入金	ふるさと応援基金繰入金	150,000千円
市債	放課後児童健全育成施設整備事業債（合併特例債）	1,400千円

主要な事務・事業の概要

○クラブ運営経費 272,167千円
- 放課後児童クラブ運営業務委託料（11クラブ） 269,099千円
- 光熱水費（大宮、口大野、弥栄） 2,414千円
- 通信運搬費 654千円

○施設維持管理経費 2,698千円
- 網戸設置（口大野、網野北） 70千円
- テラス支柱腐食修繕（口大野） 132千円
- 委託料（消防用設備保守点検、浄化槽維持管理等） 240千円
- エアコン更新工事（網野北、口大野） 1,508千円
- その他維持管理経費（火災保険料、手数料、備品購入等） 748千円

○児童送迎車運行経費 12,748千円
- 運転業務委託料（11台） 10,457千円
- 燃料費、車両修繕、保険料、運転手適性診断受診手数料等 2,291千円

■児童クラブ開設状況
- 年間開設日数： 343日（うち峰山のみ日曜日・祝日開設：61日）
- 年間平均利用登録児童数：581人（11か所、13支援単位）
- 日曜日、祝日利用登録児童数：28人　日曜日、祝日利用延べ人数：155人

地域	名称	開催場所	人(平均)	地域	名称	開催場所	人(平均)
峰山	峰山①	旧丹波小学校	61	網野	網野南	網野南小学校内	51
	峰山②		31		網野北	網野北小学校内	40
	長岡	長岡小学校内	24	丹後	丹後	丹後地域公民館内	21
	いさなご	いさなご小学校内	63	弥栄	弥栄	旧溝谷保育所	33
大宮	大宮	大宮北保育所内	54	久美浜	久美浜	久美浜小学校内	44
	口大野①	旧口大野保育所	58		海部	旧海部小学校	41
	口大野②		60				

- 開設日　月曜日～土曜日（休日、年末年始、盆時期は閉所）
  ※峰山放課後児童クラブのみ、日曜日・祝日も開設
- 開設時間　授業終了時～午後6時30分
  長期休業期及び土・日曜日等は、午前7時30分～午後6時30分

成果・課題

○利用者数が増加傾向にある中、待機児童ゼロを継続し児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てと就労の両立を支援することができた。
○利用者の増加に対応できるよう、学校の空き教室の活用など施設の確保を考えていく必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		818千円	818千円	0千円	100.0 %	部	こども部
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額 828千円	課	こども未来課
目	02 社会教育推進費							
事業	07 放課後こども教室事業							
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実							

目的

児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、小学校の余裕教室を利用した放課後こども教室を開設する。

主な財源

府補	京のまなび教室推進事業補助金	545千円

主要な事務・事業の概要

○放課後こども教室運営委託料（市内2か所） 818千円
（委託料の内訳：謝金相当分、指導員傷害賠償保険料、消耗品費）
※事業の概要

	網野北小学校区放課後こども教室	網野南小学校区放課後こども教室
実施場所	網野北小学校施設内	網野南小学校施設内
委託先	網野北小学校区放課後こども教室実行委員会	網野南小学校区放課後こども教室実行委員会
実登録人数	46人	57人
参加児童数	延べ1,237人（1回平均36人）	延べ1,306人（1回平均39人）
支援員の数	延べ278人（1回平均８人）	延べ340人（1回平均10人）
実施回数	34回	33回
実施日	令和６年4月～令和７年3月（授業のある水曜日の放課後）	
活動内容	自主学習、体験活動、集団遊び、自由遊び、スポーツなど	

※実登録人数は令和7年3月末時点の人数

成果・課題

○子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）として放課後こども教室を開設し、地域住民の協力を得て子どもたちに世代間交流の機会を提供するとともに、さまざまな体験活動を実施することができた。
○放課後こども教室の運営は、地域住民の協力を得て実施することになっており、継続して実施していくためには、スタッフの確保が課題である。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	36,003千円	36,371千円	368千円	98.9 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	02 社会教育推進費				36,948千円		
	事業	05 文化芸術事業						
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進						

主な財源		
国補	デジタル田園都市国家構想交付金	1,396千円
繰入金	韓哲･まちづくり夢基金繰入金	2,490千円
諸収入	社会教育事業等負担金	3千円

目的

令和5年度に策定した「文化芸術振興計画」に基づき、だれもが文化芸術に親しみ、人が輝き、豊かで活力ある生活が送れるよう、市民等が相互に連携し、一体となって文化芸術によるまちづくりを推進するため、各種文化芸術活動を支援する。

主要な事務・事業の概要

○文化芸術振興審議会（2回） 117千円
- 委員報酬（対象：15人中13人）、アドバイザー謝金（1人） 108千円
- 委員費用弁償 9千円

○文化芸術のまちづくり推進会議（4回） 155千円
- 委員謝金（15人）、アドバイザー謝金（2人） 145千円
- アドバイザー費用弁償（1人） 10千円

○おとまち響プロジェクト 119千円
- ピアノ調律手数料（2台） 119千円

○京丹後文化のまちづくり推進事業補助金 1,232千円

落語体験塾（ワークショップ）、落語会を開催 1,232千円

○京丹後市市制20周年記念文化公演実行委員会 1,000千円
- 丹後能（令和6年9月29日開催、参加者562人）
- 田中彩子リサイタル（令和6年12月8日開催、参加者420人）

○丹後文化芸術祭実行委員会補助金 1,300千円

北部2市2町と丹後文化事業団で設置する実行委員会が、展示会や発表会を開催する経費に対する補助金

○丹後文化事業団運営費補助金 27,000千円

文化事業団運営経費、人件費、施設管理費等に対する補助金

○京丹後市文化協会活動補助金 3,500千円

各種文化振興事業及び事務局員賃金に対する補助金

○丹後で福祉とアートをつなぐ実行委員会補助金 60千円

障害者等によるアート作品の発表の場を創出する事業に対する補助金

○京丹後アートフェスティバル開催経費 1,520千円

市民が多様な文化芸術に触れ、そこでの学びや体験を通して、創作や表現することの楽しみを体得できる機会を提供（令和6年9月～12月開催）
- 知るプログラムに関する経費 400千円
- みるプログラムに関する経費 901千円
- ワークショップフェア、その他経費 219千円

成果・課題

○優れた文化芸術を鑑賞・体験できる機会の提供及び地域文化活動の普及・振興を推進し、文化芸術活動の充実を図ることができた。
○京丹後市文化芸術振興計画を適正かつ効果的に推進するために発足した京丹後市文化芸術のまちづくり推進会議で、文化芸術によるまちづくりを具体的に進めるための検討を行った。
○（公財）京都府丹後文化事業団及び京丹後市文化協会等、各団体の自立運営に向けた支援をしていく必要がある。

＜様式2＞

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書（内部評価結果）

担当課	担当課長
生涯学習課	松本　優

重点目標	5	生涯にわたる豊かな学びを支援します
基本的方針	まちづくりや福祉等多様な分野の関係部局、また学校園、保護者、地域住民、企業、大学等の多様な主体との協働により、住民相互のネットワークづくりを進め、子どもから大人まで、だれもが生涯にわたり学び続けることができ、その成果を地域社会に還元することのできる環境づくりを進めます。	

1. 施策の方向性　PLAN

1. 生涯学習の体制づくり	① 市民の多様な学習ニーズや地域課題に対応するため、学習内容の評価・検証や情報提供等を進めます ② 市民の自主的かつ自発的な学習の場である図書館の機能の充実と利用の促進を図ります。 ③ 市民の身近な学習及び交流の拠点である中央公民館及び地域公民館の活動の充実を図るとともに、地区公民館との連携を強化することによって、地域での公民館活動を支援します。 ④ 多様化する地域課題に対応するため、地区公民館機能を含む新たな地域コミュニティ組織の立ち上げなど、公民館と地域コミュニティのあり方について見直しの検討を進めます。
2. 人権教育の推進	① 人権啓発推進協議会の活動の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら、人権に関する正しい理解と認識を高める活動を進めます。 ② さまざまな人権問題について関係法律の理念にのっとり、正しい理解と認識を深めるため、学校園、家庭及び地域など、身近な場での学習機会の充実と促進を図るとともに、関係機関・団体と連携し、職員及び指導者の資質向上を図るための学習機会の提供に努めます。
3. 社会教育施設等の整備充実	① 公民館や図書館等をはじめとする社会教育施設の設備・機能の充実を図り、社会教育の実践活動を行う環境整備を進めます。 ② 老朽化が進んでいる社会教育施設は、利用者の安全・安心に資するため、計画的な整備改修を検討します。 ③ 市民の情報拠点であり、憩いの場である市立図書館の今後のあり方について、検討を進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市子どもの読書活動第三次推進計画	本市の将来を担う子どもたちが、今後も更に本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるように、子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するために策定	令和2年3月	令和2年度～令和6年度	

2. 主な取組と構成事務事業一覧　PLAN　DO　※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照　CHECK　ACT

1. 生涯学習の体制づくり		決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 市民の多様な学習ニーズや地域課題に対応するため、学習内容の評価・検証や情報提供等を進めます。 ② 市民の自主的かつ自発的な学習の場である図書館の機能の充実と利用の促進を図ります。 ③ 市民の身近な学習及び交流の拠点である中央公民館及び地域公民館の活動の充実を図るとともに、地区公民館との連携を強化することによって、地域での公民館活動を支援します。 ④ 多様化する地域課題に対応するため、地区公民館機能を含む新たな地域コミュニティ組織の立ち上げなど、公民館と地域コミュニティのあり方について見直しの検討を進めます。					
1 社会教育委員設置事業 社会教育行政全般について調査・研究及び審議し、答申及び建議を行うとともに、地域の諸課題や市民の要望を反映した社会教育事業を展開するため、社会教育委員を設置する。	生涯学習課	383	305	361	現状維持
2 はたちを祝う式典開催事業 就職や進学などで社会経験を積み、はたちを迎えた一人ひとりが、夢と希望をもって自立的に未来を切り開き活躍することを願うとともに、郷土への愛着を醸成することを目的に、記念式典を開催する。	生涯学習課	1,012	468	602	改善・効率化
3 青少年教育事業 本市の将来を担う青少年が心豊かに成長することができるよう、地域の青少年を守り育てる活動及び団体を支援する。	生涯学習課	1,129	1,106	1,219	現状維持
4 中央公民館管理運営事業 教育委員会内に中央公民館を設置し、地域住民の学習及び交流活動の拠点となる地域公民館及び地区（自治）公民館を統括、支援するとともに、公民館関係職員の研修機会を設ける。	生涯学習課	32,854	31,137	－	現状維持

1. 生涯学習の体制づくり	決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績） 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
5 高齢者教育事業 生涯学習課 高齢者の社会参加を促進し、健康づくり、仲間づくり、生きがいづくりに貢献するとともに、その知識や経験を活かした地域活動を推進するため、高齢者の学習と交流の機会を提供する。	2,448	－	－	統合（整理）
6 地域公民館管理運営事業 生涯学習課 社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりをめざして各町に地域公民館を設置し、地域の身近な課題や生活課題等に即した学習機会を提供し、学習環境の整備・充実を図る。また、社会教育活動、生涯学習及びコミュニティ活動を行う拠点として、峰山地域公民館、丹後地域公民館、弥栄地域公民館施設の管理運営を行う。	25,559	31,928	30,161	現状維持
7 地域公民館管理運営事業【繰越】 生涯学習課 社会教育活動、生涯学習等を行う拠点として、峰山、丹後及び弥栄の各地域公民館の管理運営を行う。	2,750	－	－	
8 公民館一般経費 生涯学習課 地域公民館配置の会計年度任用職員任用経費及び公民館運営に係る事務局経費	33,471	42,146	41,818	現状維持
9 図書館管理運営事業 生涯学習課 生涯学習の拠点施設として、市民の読書、調査研究等の要求に応えるよう、様々な資料・情報を収集、整理・保存し、提供するための図書館・図書室の運営及び環境を整える。 また、子どもの読書活動推進のため、保育所・こども園、学校、地域、ボランティアなどと連携し、子どもから大人まで幅広く利用者の拡大を図るための各種行事等を企画・運営する。	75,113	84,132	110,184	現状維持
10 社会教育総務一般経費 生涯学習課 会計年度任用職員の配置等、社会教育事業全般に関する事務局経費	3,593	4,335	4,585	現状維持

2. 人権教育の推進	決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績） 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 人権啓発推進協議会の活動の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら、人権に関する正しい理解と認識を高める活動を進めます。 ② さまざまな人権問題について関係法律の理念にのっとり、正しい理解と認識を深めるため、学校園、家庭及び地域など、身近な場での学習機会の充実と促進を図るとともに、関係機関・団体と連携し、職員及び指導者の資質向上を図るための学習機会の提供に努めます。				
11 人権教育事業 生涯学習課 人権が尊重され、誰もが自分らしく生きることのできる社会の実現に向け、あらゆる人権問題についての正しい理解と認識を深めるための学習機会の提供などを通じ、さらなる人権教育を推進する。	159	91	165	現状維持

3. 社会教育施設等の整備充実	決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績） 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 公民館や図書館等をはじめとする社会教育施設の設備・機能の充実を図り、社会教育の実践活動を行う環境整備を進めます。 ② 老朽化が進んでいる社会教育施設は、利用者の安全・安心に資するため、計画的な整備改修を検討します。 ③ 市民の情報拠点であり、憩いの場である市立図書館の今後のあり方について、検討を進めます。				
12 地区公民館管理運営事業 生涯学習課 地域住民の身近な生涯学習・コミュニティ活動の拠点である、網野地域の地区公民館を維持・管理する。	4,106	4,448	1,507	縮小
13 峰山いさなご施設管理運営事業 生涯学習課 親子のふれあいや世代間の交流体験施設として生涯学習の機会を提供することにより、市民の生きがいづくり及び健康増進を図るため、峰山林業総合センター（木工体験施設）、いさなご工房（陶芸体験施設）、いさなごコート（屋根付ゲートボール場）を管理運営する。	9,673	11,282	12,064	現状維持
14 ﾏｽﾀｰｽﾞﾋﾞﾚｯｼﾞ管理運営事業 生涯学習課 活力のある長寿社会の実現に向けて、生きがいづくり、ふれあい交流づくり及び健康づくりの場を提供し、生涯学習の推進を図るため、大宮ふれあい工房（陶芸、染色体験施設）及びふれあいスポーツ広場等を適切に管理運営する。	16,591	17,431	16,133	現状維持
15 ｱｸﾞﾘｾﾝﾀｰ管理運営事業 生涯学習課 農業・農村の活性化を目的に設置したアグリセンター大宮を、地域づくり、農業経営体及び地域リーダーの育成、さらには地域住民の福祉や健康の増進を目的とした各種イベントや講演会などに有効活用できるよう適切に維持管理する。	9,052	9,241	7,191	現状維持
16 たちばな会館管理運営事業 生涯学習課 網野町橘地区における生涯学習・コミュニティの拠点として当該施設を管理運営し、地域住民の各種活動の場を提供するとともに、当該施設の利用促進を図る。	1,261	1,259	1,254	現状維持
17 網野教育会館管理運営事業 生涯学習課 社会教育及び地域の文化活動・生涯学習の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民の各種活動の場を提供するとともに、当該施設の利用促進を図る。	1,896	1,824	1,330	現状維持
計	221,050	241,133	228,574	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	まちづくりや福祉等多様な分野の関係部局、また学校園、保護者、地域住民、企業、大学等の多様な主体との協働により、住民相互のネットワークづくりを進め、子どもから大人まで、だれもが生涯にわたり学び続けることができ、その成果を地域社会に還元することのできる環境づくりを進めます。

主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
	青少年の体験活動事業数	事業	42	H25	26	R6	60	R6
	趣味・教養講座数	事業	29	H25	52	R6	35	R6
	地域課題学習講座数	事業	2	H25	12	R6	10	R6
	高齢者大学の参加者数	人	789	H25	774	R6	1,000	R6
	人権学習会の参加者数	人	820	H25	590	R6	1,200	R6
	図書の年間貸出冊数（市民1人当たり）	冊	5.2	H25	5.20	R6	7.0	R6
	地域公民館施設の利用回数	回	4,308（令和元年度）※改正時追加指標	R1	3,421	R6	7,000	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題［基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか］ CHECK ACT

進捗状況区分	評価	令和6年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる ○ 予定どおり進んでいる ▲ 少し遅れている × 大幅に遅れている	▲	**《青少年の体験活動事業数》** 青少年の健やかな成長を促す体験活動や地域活動を支援することができた。今後も市青少年健全育成会等関係団体のほか、社会教育団体や学校、地域と連携・協力をしながら、より効果的な学習・体験の機会を提供する。 **《趣味・教養講座数》** 社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりを目指して、地域の身近な課題や生活課題等に即した学習機会を提供することができた。今後は新たなコミュニティ組織の中で地域の特色を活かした魅力ある講座を開講し、社会教育活動を推進していく必要がある。 **《地域課題学習講座数》** 各町公民館連絡協議会や地域公民館を中心に地域の現状把握や課題共有に努め講座を実施している。京丹後市の歴史や自然について学ぶ講座が好評であり成果をあげている。 新たなコミュニティ組織へ移行する地域においても、公民館活動や生涯学習活動など地域課題を解決する取組を継続できるような仕組みを構築する必要がある。 **《高齢者大学の参加者数》** 生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりの機会を提供し、高齢者の社会参加の促進と生きがいづくりに寄与することができた。受講者数減少、講座内容の硬直化等の課題を改善するため、今後、高齢者大学の在り方について検討していく必要がある。 **《人権学習会の参加者数》** 人権講演会や障害者交流研修会等を通じて、人権学習の機会を提供することができた。社会情勢が目まぐるしく変化する中、人権問題は年々多様化かつ複雑化しており、その態様を的確に把握し、効果的な学習機会を提供し啓発を広げていく必要がある。 **《図書の年間貸出冊数（市民１人当たり）》** 計画どおりに各種行事を実施することができ、市民の読書推進を図ることができた。しかし、貸出冊数、図書館行事への参加者数が減少傾向にあるため、引き続きサービス等について周知、工夫に努める必要がある。また、図書館（2館）、図書室（4室）の運営体制やサービスについて、ニーズ把握に努め、対応を検討していく必要がある。 **《地域公民館施設の利用回数》** 市民に学習機会を提供することで、社会教育活動を推進することができた。一方で、貸館施設の利用者数はコロナ禍前に戻りつつある兆しはあるものの、コロナ禍で活動が止まった団体等もあり、今後の市民活動の活性化に努める必要がある。引き続き、社会教育活動や生涯学習及びコミュニティ活動を行う拠点として管理運営を行い、地域の身近な課題、生活課題等に即した学習機会の提供に努める。 丹後地域公民館は、令和2年度に耐震改修工事が完了したが、他の施設についても老朽化に伴う計画的な維持管理が課題となっている。 ※平成30年12月丹後地域公民館耐震強度不足のため貸館休止、平成30年12月から令和元年10月までは丹後庁舎を、10月から令和3年3月までは丹後庁舎と旧豊栄小学校を代替施設として使用した。 ※平成30年度～令和2年度の数値は、代替施設の数値を含めた数値。

5. 今後の施策展開の考え方（令和6年度での主な取組）

ACT

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	新たな地域コミュニティへの移行が始まる中、公民館体制及び新たな地域コミュニティにおける公民館活動の推進について、地域や関係機関等との協議等をていねいに進める必要がある。併せて都市拠点整備の中で新たな図書館のあり方について検討する。
	2	人権講演会の参加者が固定化傾向にあるため、講演の内容について、同和問題など継続的な課題はあるものの、インターネットによる人権侵害や自己実現、幸福追求など新たな人権課題にも目を向けながら、幅広く人権について考える機会を提供していく。
	3	必要な修繕の実施を行うなど、利用者が安心・安全に利用できる環境を整備し、併せて利便性の向上を図るとともに、今後の施設の在り方を検討する必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	305千円	351千円	46千円	86.8 %	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	01 社会教育総務費				481千円		
	事業	02 社会教育委員設置事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

社会教育行政全般について調査・研究及び審議し、答申及び建議を行うとともに、地域の諸課題や市民の要望を反映した社会教育事業を展開するため、社会教育委員を設置する。

主な財源

主要な事務・事業の概要

○報酬（委員：11人、報酬対象：9人）	198千円
・社会教育委員会議出席報酬（3回）	100千円
・その他会議出席報酬（近畿大会、府総会等）	98千円
○旅費（委員費用弁償、事務局普通旅費）	34千円
○負担金、補助及び交付金	65千円
・丹後地方社会教育委員連絡協議会分担金	56千円
・京都府社会教育委員連絡協議会分担金	9千円
○その他経費（消耗品費、燃料費、有料道路通行料、駐車場使用料）	8千円

＜会議の主な内容＞（3回開催）
- 令和5年度事業報告、令和6年度事業計画について
- 京丹後市公民館の再編について
- （仮称）市民大学について
- 令和7年度社会教育委推進の重点について

＜委員研修等＞
- 丹後地方社会教育委員連絡協議会理事･幹事会（3回、宮津市）
- 丹後地方社会教育委員連絡協議会総会･研修会（6月28日：宮津市）
- 京都府社会教育委員連絡協議会総会（6月28日：宮津市）
- 京都府社会教育委員連絡協議会研究大会（11月21日：向日市）
- 丹後地方社教委連だより編集会議（2回、宮津市）

成果・課題

社会教育事業及び社会教育の諸課題について審議し、また、研修の機会を通して得た内容等をもとに、市民の意向を反映した社会教育行政の推進に寄与することができた。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	468千円	495千円	27千円	94.5 %	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	02 社会教育推進費				589千円		
	事業	01 はたちを祝う式典開催事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

就職や進学などで社会経験を積み、はたちを迎えた一人ひとりが、夢と希望をもって自立的に未来を切り開き活躍することを願うとともに、郷土への愛着を醸成することを目的に、記念式典を開催する。

主な財源

主要な事務・事業の概要

○報償費	248千円
・報償金（アトラクション謝金）	28千円
・報償物品（記念写真）	220千円
○需用費 消耗品費（式次第用紙等）	33千円
○通信運搬費 開催通知、返信用ハガキ（来賓用）	5千円
○手数料 クリーニング手数料	2千円
○使用料及び賃借料 京都府丹後文化会館使用料（準備、当日）	180千円

〈令和7年京丹後市はたちを祝う式典〉
- 日　時　　令和7年3月16日（日）午後2時00分～午後4時00分
- 会　場　　京都府丹後文化会館
- 対　象　　平成16年4月2日～平成17年4月1日生まれの市内在住者及び市内各中学校卒業者487人（男254人、女233人）
- 出席者　　406人（男213人、女193人）（出席率83.4%）
- 内　容
  - 式　　典：式辞、祝辞、はたちの主張、恩師からのメッセージ、記念撮影等
  - 記念行事：高谷大地選手による講話（網野町出身、2024パリオリンピックレスリングフリースタイル74kg級銀メダリスト）
  - 企画委員：司会、アトラクションの企画運営（メッセージパネル、大抽選会、ライブパフォーマンス）

成果・課題

○成人年齢が18歳に引き下げとなったが、本市では高校卒業後一定の社会経験を積んだタイミングで家族や旧友、地域社会とのつながりをより感じることができる20歳を対象に「はたちを祝う式典」として開催した。
○式典対象者の中から企画委員を募り、応募のあった10人が企画委員として式典内容について企画・立案し、その内容を式典に反映することで、充実した「はたちを祝う式典」を開催することができた。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	1,106千円	1,126千円	20千円	98.2 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	02 社会教育推進費				1,240千円		
	事業	02 青少年教育事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

本市の将来を担う青少年が心豊かに成長することができるよう、地域の青少年を守り育てる活動及び団体を支援する。

主な財源

主要な事務・事業の概要

○児童合唱団補助金　206千円

音楽を通して自分を表現する力や社会性を身に付けるなど、豊かな心をはぐくむ活動を支援

補助金　大宮：69千円、網野32千円、久美浜105千円

○京丹後市青少年健全育成会補助金　400千円

家庭、地域社会、学校等関係団体と行政が連携・協力し、青少年の健全育成に資する活動・地域づくりを支援

◇あいさつ運動
（開催場所：市内中学校、高等学校　10か所）（参加人数延べ352人）
◇夏祭りパトロール
（開催場所：丹後、網野、久美浜　3か所）（参加人数延べ62人）
◇青少年体験事業
カヌー体験教室（10人）、親子でおさかな料理教室（18人）
おもしろ科学実験教室（170人）、パラスポーツ体験会（100人）
◇講演会（教育フォーラム共催）（180人）
◇総会、研修会（30人）
◇たよりの発行（京丹後市内全戸配布）

○地域子ども教室活動補助金　500千円

地域の中で、子どもたちが健やかに成長できる安全な場所を確保するとともに、地域全体で子どもを守り育てる活動を支援

補助金　100千円×5団体

対象地域　新山ひこばえの集い（峰山町荒山区）
ブーフ・まむ（大宮町善王寺区）
久美浜二区子ども広場（久美浜町二区）
土曜お楽しみ会（久美浜町川上・海部・佐濃地区）
チャレンジ教室（久美浜町神野地区）

成果・課題

○青少年の健やかな成長を促す体験活動や地域活動を支援することができた。
○教育フォーラムを学校教育課と共催することで、広く地域団体に理解してもらう機会となった。
○今後も市青少年健全育成会等関係団体と連携しながら、より効果的な青少年活動を推進する必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	31,137千円	31,408千円	271千円	99.1 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	03 公民館費				32,568千円		
	事業	01 中央公民館管理運営事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

教育委員会内に中央公民館を設置し、地域住民の学習及び交流活動の拠点となる地域公民館及び地区（自治）公民館を統括、支援するとともに、公民館関係職員の研修機会を設ける。

主な財源

市債　過疎地域持続的発展特別事業債（過疎債ソフト）　14,000千円

主要な事務・事業の概要

○地区公民館活動交付金　29,260千円

【積算内訳（調整有）】

地区割　20,000円×177地区
世帯数割　1,400円×19,542世帯
町均等割　250,000円×6町

○公民館総合（傷害）保険料（52館分）　1,877千円

※新コミュニティに移行済みの5地区公民館分を含む。

【交付金町域別内訳】

区　分	地区公民館数	交付金額
峰山町公民館連絡協議会	8館	7,695千円
大宮町公民館連絡協議会	15館	5,950千円
網野町公民館連絡協議会	12館	7,562千円
丹後町公民館連絡協議会	4館	2,334千円
弥栄町公民館連絡協議会	3館	2,249千円
久美浜町公民館連絡協議会	5館	3,470千円
合　計	47館	29,260千円

※令和6年度より1地区公民館（吉野地区）が、新たに新コミュニティ（いやさか吉野地域づくり協議会）に移行し「地域コミュニティ活動交付金」により支援

成果・課題

○地区公民館活動の支援を通じて、住民によるコミュニティ活動を通じた学習や交流機会の提供など、地区公民館が地域づくりの拠点としての機能を発揮することに寄与した。
○今後も新たな地域コミュニティが行う生涯学習活動について、講座や講師の紹介などのサポートを実施してく必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	31,928千円	38,933千円	7,005千円	82.0 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	03 公民館費				29,409千円		
	事業	02 地域公民館管理運営事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりをめざして各町に地域公民館を設置し、地域の身近な課題や生活課題等に即した学習機会を提供し、学習環境の整備・充実を図る。また、社会教育活動、生涯学習及びコミュニティ活動を行う拠点として、峰山地域公民館、丹後地域公民館、弥栄地域公民館施設の管理運営を行う。

主な財源

使用料	峰山地域公民館、丹後地域公民館、弥栄地域公民館使用料	1,014千円
府補	きょうと地域連携交付金（高齢者教育事業）	600千円
諸収入	地域公民館光熱水費負担金等	429千円
諸収入	社会教育事業等参加料	661千円
市債	社会教育施設整備事業債（合併特例債）	5,200千円

主要な事務・事業の概要

○講座･教室等の実施、地域公民館事業の広報　1,704千円
- 報償費（講師謝金、報償物品）　1,328千円
- 需用費（燃料費）　41千円
- 委託料（バス運転委託料）　261千円
- 使用料及び賃借料（会場借上料、入場料ほか）　74千円

○京丹後市民大学開催経費（講師謝金、消耗品費）　179千円
対象者：18歳以上の市民、講座回数：6回、受講人数：114人

○地域公民館施設等維持管理経費　24,569千円
- 需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料）　12,727千円
- 役務費（通信運搬費、手数料）　265千円
- 委託料（施設管理、施設清掃、宿日直ほか）　11,307千円
- 使用料及び賃借料（テレビ受信料、土地借上料）　270千円

○峰山地域公民館トイレ洋式化工事　5,476千円
- 設計監理委託料、工事請負費　5,476千円

＜貸館施設の利用状況＞

区　分	利用回数	延べ利用者数	施設等維持管理経費
峰山地域公民館	2,187回	17,711 人	14,685千円
丹後地域公民館	636回	11,989 人	7,348千円
弥栄地域公民館	598回	13,200 人	7,148千円

＜主な公民館事業＞　※ 参加者数は延べ人数

事業種別	事業・講座名	回数	参加者数	実施額
成人教育	ふるさと探求講座(網野･丹後･久美浜)	3回	22人	19千円
	ピラティス講座(大宮)	8回	89人	48千円
	膝痛改善プログラム体験講座(久美浜)	3回	43人	18千円
青少年教育	夏休み子ども体験教室(峰山･大宮･弥栄･久美浜)	7回	76人	16千円
	網野町ウイークエンド事業(網野)	12回	259人	137千円
家庭教育	親子ふれあいスクール(久美浜)	3回	46人	12千円

参考		
	繰越明許費を除いた最終予算額	32,586千円
	実質的な予算執行率	97.9%

■令和7年度への繰越事業　6,347千円
- 峰山地域公民館トイレ洋式化工事（令和7年4月完了）　6,347千円

成果・課題

○市民に多様な分野の学習機会を提供することで、充実した社会教育活動を推進することができた。
○各公民館施設の老朽化により、修繕が必要な箇所が多いことから、計画的な修繕を検討する必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	42,146千円	42,944千円	798千円	98.1 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	03 公民館費				39,846千円		
	事業	50 公民館一般経費						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

地域公民館配置の会計年度任用職員任用経費及び公民館運営に係る事務局経費

主な財源

主要な事務・事業の概要

○会計年度任用職員任用経費（地域公民館：12人）　41,206千円
（社会教育指導員　6人、事務補助員　6人）

○公民館職員研修会、担当者会議への参加　34千円
- 旅費　8千円
- 有料道路通行料、駐車場使用料　26千円

○地域公民館配置公用車（6台）の維持管理経費　761千円
- 公用車燃料費、修繕料　575千円
- 登録手数料、損害保険料　145千円
- 自動車重量税　41千円

○京都府公民館連絡協議会分担金　32千円

○AED借上料（峰山・丹後地域公民館）　101千円

○その他経費（消耗品費）　12千円

成果・課題

○市内6地域公民館の運営について、正職員である地域公民館長1人と会計年度任用職員2人の3人体制により、適正に運営することができた。
○研修を通した公民館職員の資質向上、及び情報共有による各地域公民館活動の更なる充実を図る必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	84,132千円	169,131千円	84,999千円	49.7 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	04 図書館費				78,181千円		
	事業	01 図書館管理運営事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

生涯学習の拠点施設として、市民の読書、調査研究等の要求に応えるよう、様々な資料・情報を収集、整理・保存し、提供するための図書館・図書室の運営及び環境を整える。
また、子どもの読書活動推進のため、保育所・こども園、学校、地域、ボランティアなどと連携し、子どもから大人まで幅広く利用者の拡大を図るための各種行事等を企画・運営する。

主な財源

寄附金	ふるさと応援寄附金	300千円
繰入金	ふるさと応援基金繰入金	5,000千円
市債	社会教育施設整備事業債（合併特例債）	3,000千円

主要な事務・事業の概要

○図書館協議会委員報酬等（委員10人、協議会2回）	65千円
○市立図書館（2館4室）の管理運営費	80,810千円
・会計年度任用職員任用経費（常勤19人、代行12人）	65,529千円
・図書購入費（AV資料含む）	6,302千円
・雑誌及び新聞購入費	1,395千円
・ブックスタート事業経費（235人に実施、絵本配付）	139千円
・Wi-Fiルーター通信料	136千円
・図書システム利用料、保守委託料、設定手数料	3,314千円
・光熱水費（あみの図書館）	2,242千円
・その他（図書装備用品等）	1,753千円
○あみの図書館空調設備改修工事	3,257千円
・工事設計監理委託料	3,257千円

参考		
	繰越明許費を除いた最終予算額	84,475千円
	実質的な予算執行率	99.5%

■令和7年度への繰越事業	84,656千円
・あみの図書館空調改修工事（令和7年9月完了予定）	84,656千円

＜利用状況等＞

区　分	蔵書数	年間貸出点数	（個人貸出点数）	年間貸出者数
峰山図書館	83,818点	64,446点	46,037点	11,046人
あみの図書館	107,549点	93,960点	76,235点	17,234人
大宮図書室	37,003点	54,936点	43,086点	8,877人
弥栄図書室	29,028点	29,174点	24,444点	5,825人
丹後図書室	29,962点	30,134点	23,239点	5,657人
久美浜図書室	26,104点	44,476点	35,374点	8,465人
（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ）	-	9,657点	9,657点	-
合　計	313,464点	326,783点	258,072点	57,104人

※市民1人当たりの年間貸出冊数：5.20冊　（個人貸出点数/R6年度末人口）
※（インターネット）：インターネットでの貸出延長処理

成果・課題

○計画通り行事を実施することができ、市民に対する読書推進を図ることができた。
○貸出冊数、図書館行事への参加者数が減少傾向にあるため、引き続きサービス等について周知、工夫に努める必要がある。
○市立図書館（2館）図書室（4室）の運営体制・サービスについて、ニーズ把握に努め、対応を検討していく必要がある。
○都市拠点公共施設整備基本計画に基いた既存施設の在り方も含め、検討を進めていく必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	4,335千円	4,379千円	44千円	98.9 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	01 社会教育総務費				4,041千円		
	事業	50 社会教育総務一般経費						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

会計年度任用職員の配置等、社会教育事業全般に関する事務局経費

主な財源

主要な事務・事業の概要

○会計年度任用職員任用経費（社会教育指導員1人） （配属先：生涯学習課）	3,973千円
○役務費（通信運搬費）	1千円
○京丹後市連合婦人会活動補助金 ・活動内容：講演会、各種ボランティア、管外研修　ほか	361千円

成果・課題

○社会教育指導員の配置により、各種社会教育事業を円滑に進めることができた。
○市連合婦人会の活動を支援することにより、女性の自主的な学習活動、ボランティア活動等の推進に寄与した。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	91千円	125千円	34千円	72.8 %	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	02 社会教育推進費				178千円		
	事業	06 人権教育事業						
基本計画		22 人権を尊重するまちづくり						

目的

人権が尊重され、誰もが自分らしく生きることのできる社会の実現に向け、あらゆる人権問題についての正しい理解と認識を深めるための学習機会の提供などを通じ、さらなる人権教育を推進する。

主な財源

府補　人権問題啓発事業費補助金（1/2）　35千円

主要な事務・事業の概要

○人権教育研究京丹後市大会の開催経費　77千円
- 講師謝金　72千円
- 消耗品費（資料用紙等）　5千円

【人権教育研究京丹後市大会（R6.8.21）　参加者：200人】
講演「大好きは　魔法の言葉」
講師　作家・映画監督・元特別支援学校教諭　　山元　加津子 氏
（会場：アグリセンター大宮）

○その他経費（消耗品費）　14千円

（参考）視覚・聴覚障害者交流研修会の開催
【視覚障害者交流研修会（R6.6.27）　参加者：14人】
【聴覚障害者交流研修会（R6.11.1）　参加者：8人】
講話「大阪・関西万博で見ることのできる未来」、型を使った染色体験
（会場：大宮ふれあい工房）

成果・課題

○人権教育研究京丹後市大会を通じ、人権学習の機会を提供することができた。また、障害者交流研修会を通じて、障害者の交流及び社会参加の促進につなげることができた。
○誰もが平等で、人権を尊重する心を身につけ、日常生活の中で無意識に行動できるよう、啓発活動だけでなく学習の機会を充実させる必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	4,448千円	4,551千円	103千円	97.7 %	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	03 公民館費				4,448千円		
	事業	03 地区公民館管理運営事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

地域住民の身近な生涯学習・コミュニティ活動の拠点である、網野地域の地区公民館を維持・管理する。

主な財源

諸収入　網野、新庄公民館光熱水費負担金　219千円

主要な事務・事業の概要

○網野地域の地区公民館施設の維持管理経費　4,448千円
- 地区公民館管理謝金（8館分）　936千円
- 地区公民館経常経費（3館分）　1,218千円
  消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料、
  通信運搬費、し尿汲取手数料、ガス警報器使用料
  アスベスト分析等検査手数料（網野地区公民館）
- 施設管理等委託料（1館分）　519千円
  網野地区公民館管理業務、消防設備等保守点検業務
- 地区公民館火災保険料等補助金（7館分）　1,775千円

＜利用状況＞
- 網野地区公民館

区　分	利用回数	延べ利用者数
大広間	126回	2,905人
大会議室・小会議室	129回	2,368人
公民館会議室	12回	179人
和　室	80回	713人
調理室	3回	56人
合　計	350回	6,221人

成果・課題

○適正に維持管理を行うことにより、施設の機能、利用者の利便性を維持確保することができた。
○網野地域には地区集会施設の一部を公民館施設として占用しているものがある。この施設管理費について負担割合を設定し、補助金などにより支出しているが、他地域の地区公民館の現状を踏まえ、地区公民館管理謝金、地区公民館火災保険料等補助金について令和6年度で廃止をした。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	11,282千円	11,422千円	140千円	98.7 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	06 社会教育施設費				10,614千円		
	事業	01 峰山いさなご施設管理運営事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

親子のふれあいや世代間の交流体験施設として生涯学習の機会を提供することにより、市民の生きがいづくり及び健康増進を図るため、峰山林業総合センター（木工体験施設）、いさなご工房（陶芸体験施設）、いさなごコート（屋根付ゲートボール場）を管理運営する。

主な財源

使用料	公有財産使用料	62千円
使用料	峰山林業総合ｾﾝﾀｰ使用料	58千円
使用料	峰山いさなご工房使用料	609千円
使用料	峰山いさなごｺｰﾄ使用料	9千円
諸収入	峰山林業総合ｾﾝﾀｰ木工教室等材料代	21千円
諸収入	太陽光発電余剰電力料	49千円

主要な事務・事業の概要

○会計年度任用職員任用経費　8,663千円
- 社会教育指導員　1人
- 作業員　2人

○管理運営経費　2,619千円
- 需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料）　2,054千円
- 役務費　115千円
  （通信運搬費、浄化槽法定検査手数料、廃消火器処理手数料）
- 委託料　388千円
  （浄化槽維持管理委託料、消防設備等保守点検委託料）
- 使用料及び賃借料（機械器具借上料、テレビ受信料）　62千円

＜利用状況＞

区　分	利用回数	延べ利用人数
峰山林業総合センター	138回	912人
いさなご工房	238回	624人
いさなごコート	280回	4,006人
合　計	656回	5,542人

成果・課題

施設の管理及び貸し出し、木工・陶芸の指導、定期講座の実施などを通して、市民に学習と交流の機会を提供し、スポーツ・文化活動の振興、健康づくりの推進などに寄与することができた。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	17,431千円	17,672千円	241千円	98.6 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	06 社会教育施設費				17,365千円		
	事業	02 ﾏｽﾀｰｽﾞﾋﾞﾚｯｼﾞ管理運営事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

活力のある長寿社会の実現に向けて、生きがいづくり、ふれあい交流づくり及び健康づくりの場を提供し、生涯学習の推進を図るため、大宮ふれあい工房（陶芸、染色体験施設）及びふれあいスポーツ広場等を適切に管理運営する。

主な財源

使用料	大宮ふれあい工房使用料	956千円
使用料	大宮ふれあいｽﾎﾟｰﾂ広場使用料	31千円
諸収入	大宮ふれあい工房関係諸収入	4千円
諸収入	社会教育事業等参加料	51千円

主要な事務・事業の概要

○会計年度任用職員任用経費　13,315千円
- 事務補助員　2人
- 作業員　4人

○施設管理運営経費　4,116千円
- 普通旅費　5千円
- 需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料等）　3,115千円
- 役務費（通信運搬費、火災保険料等）　87千円
- 委託料（自家用電気工作物保安管理業務、草刈業務等）　840千円
- 使用料及び賃借料（テレビ受信料、清掃用具借上料等）　69千円

＜利用状況＞

区　分		延べ利用者数等	
ふれあい工房	展示室	利用者数	975人
	会議室	利用者数	272人
	陶芸体験	体験者数	383人
	染色体験	体験者数	365人
	その他	利用者数	1,037人
ふれあいスポーツ広場		利用者数	3,611人
合　計			6,643人

成果・課題

○陶芸、染色実習室、展示室、会議室及びスポーツ広場の利用提供並びに各種講座及び教室を実施することで、市民の生きがいづくり及び健康増進に寄与することができた。
○施設の老朽化が進行する中、施設所有者である京都府等と維持管理や運営の在り方等を協議・検討する必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	06 農林水産業費	9,241千円	9,619千円	378千円	96.0 %		
	項	01 農業費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	02 農業総務費				7,018千円		
	事業	03 ｱｸﾞﾘｾﾝﾀｰ管理運営事業						
基本計画		02 6次産業化・ブランド化で農林業を振興						

主な財源		
使用料	ｱｸﾞﾘｾﾝﾀｰ使用料	1,608千円
諸収入	ｱｸﾞﾘｾﾝﾀｰ光熱水費等負担金	120千円

目的

農業・農村の活性化を目的に設置したアグリセンター大宮を、地域づくり、農業経営体及び地域リーダーの育成、さらには地域住民の福祉や健康の増進を目的とした各種イベントや講演会などに有効活用できるよう適切に維持管理する。

主要な事務・事業の概要

○需用費	5,806千円
・消耗品費（トイレットペーパー、蛍光灯ほか）	64千円
・燃料費（ガス、灯油）	984千円
・印刷製本費（利用申請書）	37千円
・光熱水費（電気、上下水道代）	2,394千円
・修繕料（施設設備）	2,327千円
○役務費	49千円
・通信運搬費（FAX使用料）	33千円
・廃家電処理手数料	16千円
○委託料	3,373千円
（施設清掃業務、アグリセンター管理業務 設備保守管理業務、移動観覧席点検業務、空調設備保守業務 自動ドア保守点検業務、特定建設備定期点検等業務 害虫駆除業務、消防設備等点検業務）	
○使用料及び賃借料（テレビ受信料）	6千円
○償還金、利子及び割引料（センター使用料還付金）	7千円

〈利用状況〉

区　　分	利用回数	利用人数
農業技術研修室	298 回	7,596 人
視聴覚教育室	635 回	15,489 人
地域活性化研修室（和室）	592 回	10,781 人
多目的ホール（エントランス含む）	225 回	15,334 人
調理加工実習室	61 回	2,126 人
合　　計	1,811回	51,326 人

※前年度利用状況　1,254回、23,589人

成果・課題

○農林業の振興にかかる研修会・講習会をはじめ、生涯学習や福祉など幅広い分野で施設活用ができた。
○平成9年建築の施設で築後27年が経過しており、館内の冷暖房や調理加工実習室のオーブンレンジ等機材の老朽化が進んでおり、計画的な設備更新や改修及び適正な維持管理を行う必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	1,259千円	1,267千円	8千円	99.3 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	06 社会教育施設費				1,191千円		
	事業	03 たちばな会館管理運営事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

主な財源		
諸収入	たちばな会館光熱水費負担金	336千円

目的

網野町橋地区における生涯学習・コミュニティの拠点として当該施設を管理運営し、地域住民の各種活動の場を提供するとともに、当該施設の利用促進を図る。

主要な事務・事業の概要

○施設管理運営経費	1,259千円
・需用費（燃料費、光熱水費、修繕料）	718千円
・役務費（通信運搬費）	32千円
・委託料（会館管理業務、消防設備等保守点検業務）	509千円

＜利用状況＞

区　分	利用回数	延べ利用者数
会議室	37 回	327人
大会議室	102 回	1,113人
料理実習室	18 回	98人
和室1	63 回	542人
和室2		
多目的ホール	190 回	2,146人
合　計	410 回	4,226人

成果・課題

○地域の学習活動及びコミュニティ活動の拠点施設として適正に維持管理することで、施設を活用した効果的な地域活動を促進することができた。
○施設の管理方法などの見直しについては、引き続き、地元の意向を聞きながら、検討を進めていく必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	1,824千円	1,836千円	12千円	99.3 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	06 社会教育施設費				1,731千円		
	事業	04 網野教育会館管理運営事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

社会教育及び地域の文化活動・生涯学習の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民の各種活動の場を提供するとともに、当該施設の利用促進を図る。

主な財源

主要な事務・事業の概要

○施設管理運営経費	1,824千円
・需用費（燃料費、光熱水費、修繕料）	546千円
・役務費	49千円
（通信運搬費、浄化槽法定検査手数料、廃家電処理手数料）	
・委託料	696千円
（浄化槽維持管理業務、消防設備等保守点検業務、防火対象物定期点検報告業務、会館管理業務）	
・使用料及び賃借料（テレビ受信料）	11千円
・備品購入費（講義室・事務室空調機更新）	522千円

＜利用状況＞

区　分	利用回数	延べ利用者数
1階和室	104回	1,064人
料理実習室	8回	230人
講義室	46回	428人
2階和室	0回	0人
大ホール	343回	3,372人
全　館	5回	1,490人
合　計	506回	6,584人

成果・課題

○人権学習や地域の拠点施設として適正に維持管理することで、施設を活用した効果的な学習及び地域活動を促進することができた。
○施設の管理方法などの見直しについては、引き続き、地元の意向を聞きながら、検討を進めていく必要がある。

＜様式2＞

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書（内部評価結果）

担当課	担当課長
文化財保存活用課	村田　雅之
生涯学習課	松本　優

重点目標	6	歴史・文化芸術を活かし、豊かな感性と郷土への愛着と誇りを育みます
基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。	

1．施策の方向性　PLAN

1．豊かな歴史文化等を学習する機会の充実	① 京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。 ② 子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③ 文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。
2．地域の文化財の総合的な保存と活用	① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。 ② 京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③ 京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画に基づき、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。
3．資料館施設等の整備充実	① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ② 児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④ 資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。
4．文化芸術活動の推進	①「京丹後市文化芸術振興計画」に基づき、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 ② 市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市文化財マスタープラン	市内に所在する多岐にわたる文化財を適切に保護し、その中から特に学術的に重要で、まちづくりの観点からも価値が高いと判断される史跡等文化財に対して、保存及び活用整備をすすめるための方向性を示すもの	平成18年10月	計画期間の定めなし	
国史跡網野銚子山古墳整備基本計画	「丹後王国」を代表する国史跡網野銚子山古墳に関して、京丹後市史跡整備検討委員会を組織して専門的な立場、地元の立場からの検討を加えて基本計画を策定した	平成23年3月	当面の計画として概ね6年間	当面整備計画として概ね6年の計画も策定
京丹後市文化芸術振興計画	市民が主体となって文化芸術活動に取り組み、楽しみを感じられる文化芸術のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために策定	令和5年3月	令和5年度～令和14年度	
京丹後市文化財保存活用地域計画	「丹後半島」における多彩な交流・交易、人々の暮らしが生み出した歴史文化や文化財を「光」ととらえ、「光」を未来につなぐ誇りあるまちづくりを進める指針とするもの	令和4年12月	令和5年度～令和9年度	

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN　DO　※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照　CHECK　ACT

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実

主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。 ② 子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③ 文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。					

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実

主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
1 郷土資料館管理運営事業 郷土資料館は、市内の主に民俗資料等を整理・収蔵・調査・公開する施設である。特色ある本市の文化・風土・伝統などを紹介し、文化財の保存活用、普及啓発を図る拠点施設として位置付けている。 また、「丹後学」など学校教育とも連携を図りながら、市内小中学生へ向けて郷土の歴史文化への興味関心を高める役割も果たす。	文化財保存活用課	2,173	1,855	8,377	拡大
2 古代の里資料館管理運営事業 丹後古代の里資料館は、市内の主に考古、美術工芸、古文書、歴史資料を収蔵・調査・公開する施設であり、本市の文化財の保存活用、普及啓発を図る拠点施設として位置付けている。 また、「丹後学」など学校教育と連携を図りながら、市内小中学生へ地域学習の場や郷土の歴史への興味関心を高める役割も果たす。	文化財保存活用課	13,353	17,584	17,906	現状維持

2. 地域の文化財の総合的な保存と活用

主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。 ② 京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③ 京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画を策定し、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。					
3 指定文化財等管理事業 市内に所在する貴重な文化財を後世に残すために、所有者に対し修理や保全に係る補助金を交付するとともに、市所有の重要文化財等の保存処理及び修繕を実施する。また、市内指定文化財（国、府、市指定文化財）等を適切に維持管理し、指定文化財等の普及啓発を図る。	文化財保存活用課	11,943	11,261	18,195	拡大
4 遺跡整備事業 地域の特色と歴史を物語る重要な史跡等を有効に活用するため、史跡整備を推進する。 国史跡網野銚子山古墳の保存・活用に向け、令和6年度は、埴輪列一部復元、説明板等設置、休憩施設建築、駐車場・道路整備等などの環境整備を実施し、整備完了を予定している。	文化財保存活用課	53,666	54,002	131,028	拡大
5 遺跡発掘調査等事業 市内に残る遺跡等の適正な保存・活用のため、開発に先立つ発掘調査を実施して開発事業との円滑な調整を図るとともに、状況確認のための発掘調査及びその成果をまとめる整理作業を実施し、公表する。	文化財保存活用課	4,642	2,637	2,144	現状維持
6 地域文化財総合活用推進事業 文化庁の認定を受けた「京丹後市文化財保存活用地域計画」により、京丹後市の歴史文化や文化財を後世に伝えるため、市民遺産会議を運用するほか、京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会による進捗管理などを行う。	文化財保存活用課	5,227	597	1,181	拡大
7 地域文化財総合活用推進事業【繰越】 市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。	文化財保存活用課	－	－	－	
8 文化財保存活用基金 京丹後市文化財保存活用地域計画に基づき、本市の貴重な文化財の保存及び活用を進めることを目的に、「文化財保存活用基金」に積み立てを行うもの。	文化財保存活用課	34,586	52,397	－	現状維持

3. 資料館施設等の整備充実

主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ② 児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④ 資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。					
9 郷土資料館管理運営事業《再掲》 郷土資料館は、市内の主に民俗資料等を整理・収蔵・調査・公開する施設である。特色ある本市の文化・風土・伝統などを紹介し、文化財の保存活用、普及啓発を図る拠点施設として位置付けている。 また、「丹後学」など学校教育とも連携を図りながら、市内小中学生へ向けて郷土の歴史文化への興味関心を高める役割も果たす。	文化財保存活用課	－	－	－	現状維持

3. 資料館施設等の整備充実	決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容(実績) 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
10 古代の里資料館管理運営事業《再掲》 文化財保存活用課 丹後古代の里資料館は、市内の主に考古、美術工芸、古文書、歴史資料を収蔵・調査・公開する施設であり、本市の文化財の保存活用、普及啓発を図る拠点施設として位置付けている。 また、「丹後学」など学校教育と連携を図りながら、市内小中学生へ地域学習の場や郷土の歴史への興味関心を高める役割も果たす。	－	－	－	現状維持
11 資料館等指定管理施設運営事業 文化財保存活用課 琴引浜鳴き砂文化館は、本市の豊かな自然環境のシンボルである琴引浜の鳴き砂についての展示や様々な体験事業を実施し、普及啓発を行う施設である。 また、世界認定されている山陰海岸ジオパークの拠点施設としても位置付けており、他の関連地域や施設と連携し積極的な事業展開に努める。	10,204	10,329	10,740	現状維持

4. 文化芸術活動の推進	決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容(実績) 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 ② 市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。				
12 文化芸術事業《再掲》 生涯学習課 令和5年度に策定した「文化芸術振興計画」に基づき、だれもが文化芸術に親しみ、人が輝き、豊かで活力ある生活が送れるよう、市民等が相互に連携し、一体となって文化芸術によるまちづくりを推進するため、各種文化芸術活動を支援する。	－	－	－	現状維持

上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業	決算額(単位:千円)			事務の改善
事務事業名称・事業内容(実績) 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
13 文化財保護審議会委員設置事業 文化財保存活用課 文化財の指定・解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。	127	105	140	現状維持
14 文化財保護一般経費 文化財保存活用課 文化財の保護と活用を図るため、郷土資料館、丹後古代の里資料館以外に所管している文化財の収蔵施設等の維持管理を適切に行い、各種文化財保護関係団体の活動を推進する。 また、市が所蔵する小牧源太郎の絵画を公開し活用を図る。	2,281	－	－	統合(整理)
15 文化財保存活用一般経費 文化財保存活用課 文化財の保存と活用を図るため、資料館以外に所管している文化財の収蔵施設等の維持管理を適切に行うとともに、各種文化財保護関係団体の活動を推進する。	－	381	228	統合(整理)
計	124,849	133,564	172,033	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。

主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値(現状)	年度	目標値	年度
	文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数	人	1,468 (5事業、17講座)	H25	699	R6	1,700	R6
	資料館、文化館入館者数	人	13,808 (3施設)	H25	12,016	R6	18,000	R6
	史跡整備	遺跡	6	H25	7	R6	8	R6
	京丹後史博士の認定者数	人	－		67	R6	120	R6
	文化協会加盟サークル数	団体	170	H25	106	R6	200	R6
	文化芸術事業の開催回数	回	－	R1	46	R6	100	R6
	京都府丹後文化会館利用者数	人	－	R1	28,562	R6	42,000	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK ACT

進捗状況区分	評価	令和6年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる ○ 予定どおり進んでいる ▲ 少し遅れている × 大幅に遅れている	▲	**《文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数》** 建造物修理現場公開や古墳発掘調査現地説明会など、関係機関と協力しながら現地見学の取り組みを増加した(8件、340人)。また、初めての試みとして文化財めぐりマップを利用したスタンプラリーを行った(参加者88人)。そのほか外部からの出前講座等の対応を行った(14件、271人) 今後も引き続き、継続的にセミナー等を実施することとしたい。 **《資料館、文化館入館者数》** 全体として入館者は前年度実績と比べ112%の増となった。丹後古代の里資料館・郷土資料館・鳴き砂文化館資料館の入館者は回復傾向とみているが、コロナ前の水準には達していない。 今後は、各館ともに、連携による事業実施を行い、集客増につなげていきたい。 **《史跡整備》** 網野銚子山古墳整備事業は、京丹後市史跡整備検討委員会の検討を進めながら平成29年度には環境整備基本設計を実施し、平成30年度より整備工事を進めている。 令和6年度で古墳本体の整備工事を終了することができた。しかし、同時に予定していた駐車場・ガイダンス施設の工事については、令和7年度への繰越事業として引き続き工事を進めている。 **《京丹後史博士の認定者数》** 京丹後市文化財保存活用地域計画において、博士講座を改編し、資料調査講座、ガイド育成講座を実施することを実行計画としてあげるなど、より具体的な人材育成に資するような方針に変更したため、京丹後史博士の認定者数に変更はない。令和6年度はガイド育成にも資する内容の講座として、「京丹後の歴史文化を学ぶ」と題し合計4回開催し、延べ107人の参加があった。地域計画に基づき、ガイド育成などの参加型の講座内容を検討し実施していく予定。 **《文化協会加盟サークル数》** コロナ禍による活動の停滞及び会員の高齢化等のため多くの団体が脱退した(加盟団体112団体)。そのような状況の中でも、各加盟団体が実施する教室や大会、市協会が実施する総合文化祭、サークル体験会を通じて、市民へ芸術鑑賞機会を提供することができた。今後も、市民が文化力を高め、加盟サークル数増加にもつながるよう協会を支援する必要がある。 **《文化芸術事業の開催回数》** 優れた文化芸術を鑑賞・体験できる機会の創出に努めたとともに、地域文化活動の普及・振興を推進し、文化芸術活動の充実を図ることができた。また、「京丹後市文化芸術振興計画」を適正かつ効果的に推進し、文化芸術によるまちづくりを具体的に進めるため「京丹後市文化芸術のまちづくり推進会議」が発足した。 **《京都府丹後文化会館利用者数》** コロナ禍に落ち込んでいた入場者数は令和5年度にようやく回復の兆しが見えてきたものの、まだホール稼働率はコロナ禍以前の数値には戻っていない。近隣市町と連携し丹後地域全体での利用拡大計画を立てる必要がある。

5. 今後の施策展開の考え方(令和6年度での主な取組)

ACT

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	令和4年度で策定した京丹後市文化財保存活用地域計画に基づき、庁内や関係団体との連携を図り、多面的な文化財の保存・活用を進める。また文化財セミナー等の講演会、資料館施設での様々な展示、体験事業を開催するとともに、出前講座への積極的な対応も行い、学習する機会の充実を図る。
	2	網野銚子山古墳の整備事業では、墳丘の整備のほか、ガイダンス施設、進入道路、駐車場等の整備を行う予定である。これにより、市民や外からの観光客に、日本海側最大の前方後円墳の姿を示し、地域学習や観光スポットとしての活用をはかる。
	3	丹後古代の里資料館、郷土資料館、琴引浜鳴き砂文化館を適切に維持管理するとともに、それぞれ収蔵資料の内容から機能分化し、市民や外からの観光客に、地域学習や観光スポットとしての活用を図る。
	4	市文化芸術振興計画に基づき、関係団体等と連携し、優れた芸術・文化の鑑賞機会の提供、地域の特色を活かした芸術・文化活動を実施並びに支援するとともに、文化活動を支える人材育成を地道に取り組む。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	1,855千円	1,866千円	11千円	99.4 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
	目	05 資料館費				1,716千円		
	事業	01 郷土資料館管理運営事業						
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進						

目的

郷土資料館は、市内の主に民俗資料等を整理・収蔵・調査・公開する施設である。特色ある本市の文化・風土・伝統などを紹介し、文化財の保存活用、普及啓発を図る拠点施設として位置付けている。
また、「丹後学」など学校教育とも連携を図りながら、市内小中学生へ向けて郷土の歴史文化への興味関心を高める役割も果たす。

主な財源

使用料	郷土資料館入館料	19千円

主要な事務・事業の概要

○郷土資料館の維持管理、展示等に関する経費	1,855千円
・維持管理経費	1,080千円
（燃料、光熱水費、修繕料、通信費）	
・施設保守管理経費（貯水槽、浄化槽、消防設備）	188千円
・施設警備委託料	86千円
・使用賃借料（コピー機借上料）	154千円
・その他事務経費（消耗品）	136千円
・原材料費（資料館まつり体験用）	9千円
・報償費（織機調整･実演）	12千円
・食糧費	1千円
・ごみ持込処理手数料	2千円
・雑木伐採委託料	187千円

【企画展示・イベント】

期　間	企画展示・イベント等	人数
R6.7～8	夏休みは資料館へ行こう！	24人
R6.7～9	夏季企画展「戦時中のくらし-紙に遺された戦争の足跡-」	45人
R6.11～12	秋季企画展「こどものくらし-昭和のこどもたち-」	170人
R6.11.9	郷土資料館まつり	90人
R7.3～4	春季企画展「ひなまつり-桃の節句-」	38人

【入館者数・推移】　開館日数　約150日／年

R2	R3	R4	R5	R6
75人	215人	321人	325人	279人

※R2、R3は新型コロナウィルス感染症拡大防止等のため臨時休館期間あり

成果・課題

○民俗資料・典籍等の常設展示のほか、企画展示やイベント等を実施し、郷土の文化について広く知る機会を提供した。
○網野給食センターの隣接地移転に伴い、新たに食文化の展示に取り組んだ。
○市内に分散している旧6町分の民具等の保管について、計画的に整理・集約等を行う必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	17,584千円	17,728千円	144千円	99.1 %		
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
	目	05 資料館費				15,913千円		
	事業	02 古代の里資料館管理運営事業						
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進						

目的

丹後古代の里資料館は、市内の主に考古、美術工芸、古文書、歴史資料を収蔵・調査・公開する施設であり、本市の文化財の保存活用、普及啓発を図る拠点施設として位置付けている。
また、「丹後学」など学校教育と連携を図りながら、市内小中学生へ地域学習の場や郷土の歴史への興味関心を高める役割も果たす。

主な財源

使用料	古代の里資料館入館料	599千円
諸収入	古代の里資料館陶芸教室実習料	7千円
諸収入	古代の里資料館物品販売代金	26千円
諸収入	古代の里資料館書籍販売代金	229千円

主要な事務・事業の概要

○丹後古代の里資料館の維持管理、展示等に関する経費	16,608千円
・会計年度任用職員任用経費　計4人：古代は2人／日	12,673千円
（資料館業務員4人、郷土資料館と兼務）	
・維持管理経費（燃料、光熱水費、修繕、通信費）	1,866千円
・施設保守管理経費（電気設備、浄化槽、消防設備）	465千円
・施設警備委託料	74千円
・荷物運搬作業委託料	443千円
・使用料及び賃借料（コピー機、清掃用具、土地借上げ等）	442千円
・その他事務経費（消耗品）	304千円
・原材料費（缶バッジ材料）	9千円
・備品購入費（消火器、レジスター）	72千円
・ごみ処理手数料等	4千円
・展示関係経費（企画展示チラシ、旅費、有料道路料金等）	256千円
○工事請負費	976千円
・高圧設備更新工事	976千円

【企画展示・イベント】

期　間	企画展示・イベント等	人数
R6.7～9	市制20周年記念　企画展示1「歴史文化都市　京丹後」	559人
R6.7～8	夏休み企画　「夏休みは資料館へ行こう！」	163人
R6.10～11	特別展「網野銚子山古墳と京丹後市の古墳」【前期】	754人
R6.10.27	古代の里まつり	197人
R6.11～R7.2	特別展「網野銚子山古墳と京丹後市の古墳」【後期】	362人
R7.3～4	企画展示2「丹後震災の記憶」	301人

【入館者数・推移】　開館日数　約300日／年

R2	R3	R4	R5	R6
1,380人	1,579人	2,454人	2,424人	3,016人

※R2、R3は新型コロナウィルス感染症拡大防止等のため臨時休館期間あり

成果・課題

○資料を適切に保管・公開し、文化財の保存及び普及啓発を図った。
○常設展示の他、特別・企画展示、イベント等を実施し、市制20周年に市内外に本市の特色ある歴史文化をPRした。
○開館から30年以上が経過し、施設や設備の計画的な更新が課題である。
○網野銚子山古墳整備工事の完了や令和8年度末に予定されている重要文化財湯舟坂2号墳出土品の里帰り展示の予定もあることから、市民だけでなく観光客を呼び込む施設としていく必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	11,261千円	11,301千円	40千円	99.6 %	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額		
	目	07 文化財保存活用費				9,927千円	課	文化財保存活用課
	事業	02 指定文化財等管理事業						
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進						

主な財源		
国補	デジタル田園都市国家構想交付金（1/2）	267千円
国補	国宝重要文化財等保存･活用事業費補助金（65/100）	2,923千円
繰入金	文化財保存活用基金繰入金	2,000千円

目的

市内に所在する貴重な文化財を後世に残すために、所有者に対し修理や保全に係る補助金を交付するとともに、市所有の重要文化財等の保存処理及び修繕を実施する。また、市内指定文化財（国、府、市指定文化財）等を適切に維持管理し、指定文化財等の普及啓発を図る。

主要な事務・事業の概要

○京丹後市指定文化財等補助事業　19件　2,999千円
- 京丹後市指定文化財等補助金　2,987千円
- 職員旅費、有料道路通行料　12千円

神社・寺院や覆屋等の修理、民俗芸能の道具の修理・新調などを支援。
＜参考＞【令和5年度実績】14件、2,500千円

○指定文化財等維持管理費　1,355千円
- 国府市指定史跡等草刈委託料（神明山古墳ほか6件）　597千円
- 文化財施設環境美化委託料（竹野神社周辺ほか11件）　480千円
- 文化財施設光熱水費（丹後震災記念館電気代･電話代）　37千円
- 消防設備等保守点検委託料（丹後震災記念館）　11千円
- 雑木伐採委託料（丹後震災記念館）　110千円
- 文化財施設修繕料（丹後震災記念館ドア修繕等）　86千円
- 土地借上料（史跡、文化財看板設置土地借上料）　3千円
- 消耗品費（経塚古墳管理用除草剤等）　31千円

○湯舟坂2号墳出土金属製品保存科学処理委託事業　4,609千円
- 保存科学処理委託料（4か年事業の3年目）　4,515千円
- 文化庁係官派遣旅費（費用弁償）　48千円
- 職員料費、有料道路通行料　39千円
- 事務経費（消耗品費）　7千円

○コウノトリ緊急対応関係経費　341千円
モニタリング監視員設置、個体識別のための足環装着を実施。

○丹後震災記念館絵画の補修　（3か年事業の2年目）　1,123千円

○丹後震災記念館耐震化・利活用検討経費　834千円
丹後震災記念館耐震化・利活用検討事業を立ち上げ、検討委員会やパブリックミーティング等を通して方針書を取りまとめた。
- 検討委員会開催経費（委員8人、オブザーバー3人、5回開催）　352千円
- パブリックミーティング開催経費　181千円
  コーディネーター謝金（1人）　63千円
  印刷製本費（開催広報用チラシ･ポスター）　118千円
- プロジェクト広報経費（東京都復興記念館視察等）　126千円
- 丹後震災記念館内部整理経費　175千円

成果・課題

○文化財の保全のために修理等への補助金を交付し、文化財所有者等の負担軽減と貴重な文化財の保全を図ることができた。
○コウノトリの営巣に伴い必要な保護活動を行うことができた。
○丹後震災記念館の今後の方針を取りまとめることができた。
○史跡や周辺環境整備により、文化財保全や利用促進につながった。
○文化財看板等の計画的な整備に努め、利便性向上と文化財の保護啓発を図るとともに、丹後震災記念館の今後についてより具体的な検討を行っていく必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	54,002千円	132,428千円	78,426千円	40.7 %	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額		
	目	07 文化財保存活用費				131,028千円	課	文化財保存活用課
	事業	03 遺跡整備事業						
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進						

主な財源		
国補	デジタル田園都市国家構想交付金（1/2）	309千円
国補	国宝重要文化財等保存･活用事業費補助金（1/2）	13,996千円
市債	遺跡整備事業債（合併特例債）	35,900千円

目的

地域の特色と歴史を物語る重要な史跡等を有効に活用するため、史跡整備を推進する。
国史跡網野銚子山古墳の保存・活用に向け、令和6年度は、埴輪列一部復元、説明板等設置、休憩施設建築、駐車場・道路整備等などの環境整備を実施し、整備完了を予定している。

主要な事務・事業の概要

○網野銚子山古墳整備関係経費　52,104千円
- 網野銚子山古墳イラスト製作謝金　150千円
- 文化庁調査官指導旅費　12千円
- 消耗品費　33千円
- 建築確認申請手数料　28千円
- 工事設計委託料　4,527千円
- 工事監理委託料　1,121千円
- 測量委託料　2,145千円
- 復元品（埴輪）製作委託料　6,831千円
- 工事請負費（埴輪設置工事、解説板設置工事等）　37,147千円
- 水道加入負担金　110千円

【令和6年度整備内容】
古墳墳丘上の埴輪列復元15基、説明板6基・誘導板3基の設置、銚子山古墳から駐車場までの135m分の通路の舗装

○網野銚子山古墳啓発関係経費　1,281千円
- 職員旅費、有料道路通行料　31千円
- 消耗品費、印刷製本費　750千円
- ツアー企画委託料（日本海三大古墳巡り）　500千円

○史跡整備検討委員会経費　167千円
- 史跡整備検討委員会委員報酬（委員15人、3回開催）　120千円
- 委員費用弁償　47千円

○環境整備関係経費　450千円
- 網野銚子山古墳周辺下草刈委託料　450千円

参考		
	繰越明許費を除いた最終予算額	54,013千円
	実質的な予算執行率	99.9%

■令和7年度への繰越事業　78,415千円
- 網野銚子山古墳整備事業（令和7年12月完了予定）　78,415千円

成果・課題

○網野銚子山古墳について、史跡整備検討委員会の指導を受け、古墳の保存・活用を図るための環境整備工事を進めることができた。
○墳丘など史跡地内の整備工事は完了したものの、ガイダンス施設及び駐車場の整備については、土壌改良が必要となったため繰越事業として工事を実施することとなり、事業報告書の作成とともに令和7年度に繰越した。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		2,637千円	2,738千円	101千円	96.3 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
目	07 文化財保存活用費					2,602千円		
事業	04 遺跡発掘調査等事業							
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							

目的

市内に残る遺跡等の適正な保存・活用のため、開発に先立つ発掘調査を実施して開発事業との円滑な調整を図るとともに、状況確認のための発掘調査及びその成果をまとめる整理作業を実施し、公表する。

主な財源

国補	国宝重要文化財等保存･活用事業費補助金（1/2）	1,150千円
府補	埋蔵文化財緊急発掘調査費補助金（1/4）	575千円

主要な事務・事業の概要

○網野銚子山古墳・三宅遺跡発掘調査経費　1,679千円
- 会計年度任用職員任用経費（2人）　1,180千円
- 旅費（調査旅費･協議旅費）　15千円
- 需用費（消耗品、燃料費）　128千円
- 報告書印刷製本費（300部）　44千円
- 役務費（し尿汲取手数料）　2千円
- 使用賃借料（仮設トイレ借上料）　22千円
- 使用賃借料（発電機･水中ポンプ借上料）　26千円
- 使用賃借料（重機借上料）　209千円
- 使用賃借料（パソコン借上料）　43千円
- 使用賃借料（有料道路通行料）　10千円

＜調査概要＞　【網野銚子山古墳・三宅遺跡】

網野銚子山古墳の史跡整備に関連して市道を整備するため、国指定史跡銚子山古墳及び隣接する三宅遺跡の状況確認調査を実施。整理作業及び報告書を作成した。

○田村関遺跡発掘調査経費　551千円
- 会計年度任用職員任用経費（2人）　462千円
- 需用費（消耗品）　2千円
- 報告書印刷製本費（300部）　43千円
- 使用賃借料（パソコン借上料）　44千円

＜調査概要＞　【田村関遺跡（整理作業のみ）】

府営ほ場整備計画に先立ち、令和5年度に実施した範囲確認調査の整理作業及び報告書作成を実施した。

○高山12号墳大刀保存処理経費　407千円
- 高山12号墳大刀保存処理委託料　407千円

以前の保存処理で製作されたアクリル製の安定台の劣化により、資料とアクリル板が圧着。取り外す際に破損したため、修復等を行った。

成果・課題

○網野銚子山古墳（網野町網野）では、古墳の東側に沿った道が周溝の造成に伴う土地改変により残されたものであることの知見を得た。また、三宅遺跡（網野町網野）では、弥生土器が確認された。
○田村関遺跡（久美浜町田村）の調査では、遺跡の広がりや遺物の状況などを報告書として刊行し、その成果を市民に公表した。
○高山12号墳（丹後町徳光）大刀保存処理では、破損の修復を行うとともに、クリーニングや酸化防止保護膜のほか、シリコン製安定台を製作し、貴重な文化財を次世代につなぐ保存処理等を行うことができた。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		597千円	598千円	1千円	99.8 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
目	07 文化財保存活用費					651千円		
事業	05 地域文化財総合活用推進事業							
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							

目的

文化庁の認定を受けた「京丹後市文化財保存活用地域計画」により、京丹後市の歴史文化や文化財を後世に伝えるため、市民遺産会議を運用するほか、京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会による進捗管理などを行う。

主な財源

主要な事務・事業の概要

○文化財保存活用地域計画推進協議会開催経費（委員15人）　131千円
- 協議会委員謝金　2回開催、4千円×延べ19人　76千円
- 委員費用弁償　55千円

○京丹後市市民遺産会議（委員5人）　182千円
- 市民遺産会議委員謝金　56千円
  3回開催、4千円×延7人、7千円×延べ4人
- 委員費用弁償　12千円
- 市民遺産周知用チラシ･ポスター印刷（全戸配布）　114千円

○「京丹後歴史文化めぐりマップ」運用経費　284千円

京丹後市文化財保存活用地域計画に示した4つの歴史文化の特徴と11のストーリーを紹介するデジタルマップ（令和5年度製作）のサーバー使用料

成果・課題

○推進協議会や市民遺産会議の開催、市民遺産5件の認定、京丹後歴史文化めぐりマップの運用により、京丹後市文化財保存活用地域計画で示した本市の歴史文化を掘り起こし広く周知するとともに保存活用をより一層推し進めることができた。
○今後は、計画見直しに向けた計画全体の評価方法の検討や、認定市民遺産の保存活用とその支援策の検討、京丹後歴史文化めぐりマップの活用等をより推進していく必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	52,397千円	52,398千円	1千円	99.9 %	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
	目	07 文化財保存活用費				1千円		
	事業	06 文化財保存活用基金						
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進						

主な財源		
財産収入	文化財保存活用基金利子収入	28千円
寄附金	ふるさと応援寄附金	52,369千円

目的

京丹後市文化財保存活用地域計画に基づき、本市の貴重な文化財の保存及び活用を進めることを目的に、「文化財保存活用基金」に積み立てを行うもの。

主要な事務・事業の概要

京丹後市文化財保存活用基金にふるさと応援寄附金からの積み立てを行った。

○文化財保存活用基金積立金　52,397千円

（単位：千円）

令和5年度末現在高 ①	令和6年度中増減額			令和6年度末現在高 ①-②+③+④
	繰入金 ②	運用利子 ③	積立金 ④	
34,586	2,000	28	52,369	84,983

成果・課題

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	10,329千円	10,329千円	0千円	100.0 %	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費				(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
	目	05 資料館費				10,329千円		
	事業	03 資料館等指定管理施設運営事業						
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進						

主な財源

目的

琴引浜鳴き砂文化館は、本市の豊かな自然環境のシンボルである琴引浜の鳴き砂についての展示や様々な体験事業を実施し、普及啓発を行う施設である。
また、世界認定されている山陰海岸ジオパークの拠点施設としても位置付けており、他の関連地域や施設と連携し積極的な事業展開に努める。

主要な事務・事業の概要

鳴き砂や環境保全の学習施設として設置し、指定管理者制度により、琴引き浜鳴り砂を守る会が管理運営を行った。環境学習のための教育施設であるとともに、山陰海岸ジオパークを紹介する観光施設としても重要な拠点と位置付けている。

○琴引浜鳴き砂文化館指定管理委託料　9,042千円

○使用料及び賃借料　1,287千円
- 駐車場用地の一部にある民間土地借上料（518.81㎡）
- 建物の所有者である公益財団法人日本ナショナルトラストへの建物賃借料

【入館者数・推移】　開館日数　約300日／年

R2	R3	R4	R5	R6
6,055人	6,443人	7,692人	7,936人	8,713人

※R2、R3は新型コロナウィルス感染症拡大防止のため臨時休館期間あり

成果・課題

○各種視察受け入れやジオパーク関連事業、「丹後学」をはじめとする市内学校の見学対応のほか、館内展示のリニューアルを行うなど、京丹後市を代表する自然系の展示施設としての役割を果たした。
○施設修繕を計画的に実施し、適正な管理運営に努める必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		105千円	106千円	1千円	99.0 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
目	07 文化財保存活用費					167千円		
事業	01 文化財保護審議会委員設置事業							
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							
目的	文化財の指定・解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。		主な財源					

主要な事務・事業の概要

○文化財保護審議会の開催経費 81千円

文化財指定、市指定文化財の管理、現状変更に関する事項や、文化財関係事業等を検討するため審議会を開催。（委員定数：10人）
※別途自由参加の文化財見学会を２回実施。

- 報酬 （半日×2回、4千円×延べ17人） 68千円
- 費用弁償 13千円

○両丹文化財保護連絡協議会開催経費 24千円

開催は北部市町の輪番制、令和6年度は福知山市で開催

場　所：福知山市大江町総合会館イベントホール

参加者：京都府北部の各市町の文化財に携わる委員及び担当職員

テーマ：「郷土の文化財に関すること」（令和6年11月25日）
北部市町の参加者による事例発表・情報交換等を実施するとともに、京都芸術大学名誉教授伊達仁美氏の記念講演により、災害による被災文化財とそれらの救援方法などについての知見を深めた。

- 報酬 （半日、4千円×5人） 20千円
- 費用弁償 4千円

成果・課題

○文化財保護審議会において、令和7年度に新規の市指定文化財を指定するために、審議会において意見を聴取し検討を深めることができた。
○両丹文化財保護連絡協議会に参加し、京都府北部の文化財の事例や取り巻く課題について共有することにより、市の文化財や歴史文化の正確な評価を下す一助となるとともに、増加する自然災害から、文化財を次世代に継承していく術を知る良い契機とできた。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		381千円	385千円	4千円	98.9 %	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費					(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
目	07 文化財保存活用費					329千円		
事業	50 文化財保存活用一般経費							
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							
目的	文化財の保存と活用を図るため、資料館以外に所管している文化財の収蔵施設等の維持管理を適切に行うとともに、各種文化財保護関係団体の活動を推進する。		主な財源	諸収入　文化財関係書籍販売代金 50千円				

主要な事務・事業の概要

○文化財収蔵施設維持管理費（5か所） 242千円

資料館以外で所管している文化財収蔵施設に係る維持管理費

十楽収蔵庫（久美浜町十楽）　網野出土品収蔵庫（網野町網野）

旧成路分校（峰山町鱒留）　旧三重保育所（大宮町三重）

高嶋寮（丹後町上野）

- 光熱水費、十楽収蔵庫水道閉栓手数料 34千円
- 草刈委託料 79千円
- 高嶋寮窓割･窓枠倒壊修繕 107千円
- 消耗品費（文化財保護提要代含む） 22千円

○文化財関係加盟団体負担金 90千円

- 全国史跡整備市町村協議会･近畿地区協議会 50千円
- 全国鳴き砂ネットワーク 20千円
- 全国鳴砂サミット（秋田県仙北市） 20千円

○事務経費 49千円

全国史跡整備市町村臨時大会旅費（旅費・宿泊費）

- 全国史跡整備市町村協議会臨時大会出席旅費（担当職員1人）
  開催日：令和6年11月15日　東京都
  内　容：陳情活動

成果・課題

○文化財保存活用事務及び所管施設の維持管理を適切に実施し、文化財の保存と活用を図ることができた。
○旧町からの文化財収蔵施設の集約を今後進めていく必要がある。

＜様式2＞

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書（内部評価結果）

担当課	担当課長
学校教育課	上羽　正行
生涯学習課	松本　優

重点目標	7	たくましく健やかな体づくりと生涯スポーツを推進します
基本的方針	子どもたちのスポーツに親しむ習慣の確立や体力づくりに取り組み、たくましく健やかな身体を育みます。また、子どもから高齢者まで、だれもが豊かで充実した生活を送ることができるよう、市民が生涯にわたってスポーツに取り組むことのできる環境づくりを進めます。 食育は、生きるうえでの基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるものであることから、子どもたちが、自然の恩恵や「食」に関わる人々への感謝、理解を深めるとともに「食」に関する適切な判断力を身に付けることを目指します。	

1．施策の方向性　PLAN

1．健康な体づくり	① 子どもの基本的な生活習慣の確立のため、学校園が連携し、発達段階に応じた系統的な指導を行うとともに、その大切さについて家庭への啓発に努めます。 ② 喫煙・薬物乱用などの防止、各種感染症や生活習慣病の予防等に関する指導、性に関する指導について、子どもの発達段階に応じた系統的な指導を行います。 ③ 児童生徒の体力・運動能力の実態や課題を的確に把握・分析し、小中学校の教育活動全体を通じて一貫した体育指導を進めます。 ④ 学校園、家庭及び地域が連携して子どもの運動・スポーツ環境の充実を図るため、学校体育施設の開放や学校支援ボランティア等を活用し、子どもの体力・運動能力の向上につながる取組みを進めます。
2．食育の推進	① 幼児、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、給食を生きた教材として活用するとともに、横断的な食育指導の充実を図ります。 ② 地域の伝統的な食文化への理解を深め、郷土に関心を寄せる心を育むため、給食の献立に地元食材や郷土食を積極的に取り入れます。 ③ 体験学習や調理実習等の活動を通じて、「食」への感謝の気持ちを育むため、家庭や地域、地元生産者等と連携した食育の取組みを一層推進します。
3．地域スポーツ活動の推進	① スポーツ推進委員をはじめ公民館、PTA等と連携し、各種ニュースポーツ教室等の実施や各種スポーツ行事への協力等、スポーツの普及を図ります。 ② 市民の多様なスポーツニーズに対応した活動を充実するため、（一社）京丹後市スポーツ協会等の活動及び組織強化を支援します。 ③ 市民の健康づくりとして、年齢や体力、目的に応じた日常的なスポーツ活動を促進するため、、効果的なスポーツ情報の発信と機会の提供を進めます。 ④ 障害のある人や配慮が必要な様々な人が、障害の種類や程度に応じて、身近な地域で皆と一緒になって楽しめるニュースポーツの普及推進に努めます。
4．競技力の向上	① 学校体育団体と連携し、子どもたちの競技スポーツへの関心を高めるとともに競技力の向上を図るため、小中学校の一貫した指導を進めます。 ② （一社）京丹後市スポーツ協会と連携し、京丹後市総合スポーツ大会の参加者の拡大及び競技力の向上に向けて大会の実施方法等について検討を進めます。 ③ 市民の競技スポーツへの関心を高めるため、トップアスリートによる指導機会の拡充に努めるとともに、ホストタウン相手国のオリンピアンを含む体表選手など、トップアスリートの競技を観戦する機会の提供に努めます。 ④ 青少年のスポーツ活動における指導者を育成するため、研修機会の充実を図るとともに、ジュニアアスリートの育成・支援の方法について検討します。
5．社会体育施設等の整備充実	① 社会体育施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい社会体育施設の改修・修繕等を進めます。 ② 社会体育施設の利用実態を把握して利用率の向上を図るとともに、利用率の向上が見込めない施設や老朽化した施設は廃止するなど、全体のバランスを考慮した施設の配置を進めます。 ③ あらゆるスポーツの基礎となる陸上の競技力向上及びスポーツ交流人口の拡大を図るため、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の第3種公認陸上競技場としての整備を推進します。
6．スポーツ観光のまちづくり	① 自然豊かな地域とスポーツ資源を活用したスポーツイベントの開催、ジオパークの魅力を活用したアクティビティの場や機会を提供することで、より多くの方々が気軽にスポーツができる環境づくりにつなげ、多面的なスポーツ施策の展開を図ります。 ② スポーツを支えるスポーツボランティアの確保に向けた取組みを推進します。 ③ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人アスリートなど、国際社会との交流を進める「ホストタウン」の取組みと、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催を通じ、文化交流や地域の活性化を図ります。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市スポーツ推進計画	年齢や性別、障害等を問わず、広く市民がその適正やライフステージにに応じてスポーツに参画できるよう、中長期的な展望に立った「京丹後市スポーツ推進計画」を策定するもの	平成26年3月	平成26年度～平成29年度	第2次京丹後市スポーツ推進計画（平成30年度～令和9年度）

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力を全ての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN　DO　※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照　CHECK　ACT

1. 健康な体づくり

主な取組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R4決算額	R5決算額	R6予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性

① 子どもの基本的な生活習慣の確立のため、学校園が連携し、発達段階に応じた系統的な指導を行うとともに、その大切さについて家庭への啓発に努めます。
② 喫煙・薬物乱用などの防止、各種感染症や生活習慣病の予防等に関する指導、性に関する指導について、子どもの発達段階に応じた系統的な指導を行います。
③ 児童生徒の体力・運動能力の実態や課題を的確に把握・分析し、小中学校の教育活動全体を通じて一貫した体育指導を進めます。
④ 学校園、家庭及び地域が連携して子どもの運動・スポーツ環境の充実を図るため、学校体育施設の開放や学校支援ボランティア等を活用し、子どもの体力・運動能力の向上につながる取組みを進めます。

1. 健康な体づくり

主な取組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R5決算額	R6決算額	R7予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性
1 保幼小中一貫教育推進事業《再掲》 「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指すより良い教育の実現に向け、協議会及び専門部会で調査研究を行う。 また、子どもたちの学びを支える教員の授業力と学級経営力を高めるための研修を実施し、指導の一貫性を通じて子どもたちの確かな学力、豊かな心を育成する。	学校教育課	－	－	－	現状維持

2. 食育の推進

主な取組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R5決算額	R6決算額	R7予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性

① 幼児、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、給食を生きた教材として活用するとともに、横断的な食育指導の充実を図ります。
② 地域の伝統的な食文化への理解を深め、郷土に関心を寄せる心を育むため、給食の献立に地元食材や郷土食を積極的に取り入れます。
③ 体験学習や調理実習等の活動を通じて、「食」への感謝の気持ちを育むため、家庭や地域、地元生産者等と連携した食育の取組みを一層推進します。

3. 地域スポーツ活動の推進

主な取組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R5決算額	R6決算額	R7予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性

① スポーツ推進委員をはじめ公民館、PTA等と連携し、各種ニュースポーツ教室等の実施や各種スポーツ行事への協力等、スポーツの普及を図ります。
② 市民の多様なスポーツニーズに対応した活動を充実するため、（一社）京丹後市スポーツ協会等の活動及び組織強化を支援します。
③ 市民の健康づくりとして、年齢や体力、目的に応じた日常的なスポーツ活動を促進するため、効果的なスポーツ情報の発信と機会の提供を進めます。
④ 障害のある人や配慮が必要な様々な人が、障害の種類や程度に応じて、身近な地域で皆と一緒になって楽しめるニュースポーツの普及推進に努めます。

事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
2 ｽﾎﾟｰﾂ推進委員活動事業 市民にスポーツに関する指導及び助言を行うスポーツ推進委員を委嘱し、本市のスポーツ振興を図る。 また、スポーツ推進委員の資質向上のため、各種研修会や研究大会に参加する。	生涯学習課	3,316	3,284	3,148	現状維持
3 保健体育総務一般経費 スポーツ基本法に基づいて設置するスポーツ推進審議会を運営し、市民の意見を反映したスポーツ活動の推進を図る。 また、社会体育事業を円滑に実施するための事務経費のほか、全国大会等出場者激励会の開催や懸垂幕を設置するなど、優れた成績を収めた選手を讃え、スポーツ推進の機運を高める。	生涯学習課	3,108	4,244	4,160	現状維持
4 地域ｽﾎﾟｰﾂ推進事業 市民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を送ることができるよう、体力の向上や健康づくり等、年代や目的に応じて気軽に親しめるスポーツ機会を提供するほか、市総合スポーツ大会の開催、京都府民総合体育大会への出場を支援する等、スポーツ人口の拡大とスポーツを通した交流機会を確保する。	生涯学習課	6,863	7,289	5,616	現状維持

4. 競技力の向上

主な取組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	決算額（単位：千円） R5決算額	R6決算額	R7予算額	事務の改善 評価を踏まえた今後の方向性

① 学校体育団体と連携し、子どもたちの競技スポーツへの関心を高めるとともに競技力の向上を図るため、小中学校の一貫した指導を進めます。
② （一社）京丹後市スポーツ協会と連携し、京丹後市総合スポーツ大会の参加者の拡大及び競技力の向上に向けて大会の実施方法等について検討を進
③ 市民の競技スポーツへの関心を高めるため、トップアスリートによる指導機会の拡充に努めるとともに、ホストタウン相手国のオリンピアンを含む体表選手など、トップアスリートの競技を観戦する機会の提供に努めます。
④ 青少年のスポーツ活動における指導者を育成するため、研修機会の充実を図るとともに、ジュニアアスリートの育成・支援の方法について検討します。

事務事業名称・事業内容（実績）	担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
5 社会体育団体育成事業 市民へのスポーツの普及と振興を図るため、中核的な役割を担う（一社）京丹後市スポーツ協会の活動を支援する。 また、京丹後市青少年スポーツ協会の活動及び子どもスポーツ推進事業を支援することで、青少年の健全育成と体力の向上を図る。	生涯学習課	19,073	19,290	18,548	現状維持

5. 社会体育施設等の整備充実	決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績） 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 社会体育施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい社会体育施設の改修・修繕等を進めます。 ② 社会体育施設の利用実態を把握して利用率の向上を図るとともに、利用率の向上が見込めない施設や老朽化した施設は廃止するなど、全体のバランスを考慮した施設の配置を進めます。 ③ あらゆるスポーツの基礎となる陸上の競技力向上及びスポーツ交流人口の拡大を図るため、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の第3種公認陸上競技場としての整備を推進します。				
6 体育施設管理運営事業 生涯学習課 市民が生涯にわたって、心身ともに健康で文化的な生活を送ることができるよう、スポーツ活動やレクリエレーション活動の拠点となる社会体育施設の維持管理等を行う。	54,837	61,901	44,690	現状維持
7 社会体育用学校開放施設管理運営事業 生涯学習課 地域の身近な施設である学校体育施設を開放及び維持管理することにより、市民のレクリエーション活動や各種サークル活動、青少年スポーツ教室、各種スポーツ競技団体の活動等の促進を図る。	1,533	1,390	1,239	現状維持
8 久美浜湾ｶﾇｰｾﾝﾀｰ管理運営事業 生涯学習課 豊かな自然の中で、カヌーを通して市民のスポーツ及びレクリエーションの振興を図り、心身の健康づくりに資するとともに、本市のスポーツ活動の拠点の一つとして地域の活性化に資するため、カヌーセンターの管理運営を行う。	3,610	2,035	2,896	現状維持
9 都市公園等維持整備事業 生涯学習課 都市公園を適正に維持管理し、市民が快適で安全・安心に利用できるようにする。	74,502	61,208	216,629	現状維持

6. スポーツ観光のまちづくり	決算額（単位：千円）			事務の改善
主な取り組み ↓ 事務事業名称・事業内容（実績） 担当課	R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
① 自然豊かな地域とスポーツ資源を活用したスポーツイベントの開催、ジオパークの魅力を活用したアクティビティの場や機会を提供することで、より多くの方々が気軽にスポーツができる環境づくりにつなげ、多面的なスポーツ施策の展開を図ります。 ② スポーツを支えるスポーツボランティアの確保に向けた取組みを推進します。 ③ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人アスリートなど、国際社会との交流を進める「ホストタウン」の取組みと、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催を通じ、文化交流や地域の活性化を図ります。				
10 ｽﾎﾟｰﾂｲﾍﾞﾝﾄ推進事業 生涯学習課 観光分野と連携し、各種スポーツイベントの開催を支援することで、スポーツを通じた本市の魅力を発信し、交流人口の増加を図る。	8,596	7,744	3,466	現状維持
11 ﾜｰﾙﾄﾞﾏｽﾀｰｽﾞｹﾞｰﾑｽﾞ関西推進事業 生涯学習課 ワールドマスターズゲームズ関西（WMG）関連事業開催を推進し、本市のスポーツツーリズムやインバウンドの増加、障害者スポーツの基盤づくり、スポーツによる地域の活性化を図る。	2,213	2,182	2,875	現状維持
計	177,651	170,567	303,267	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	子どもたちのスポーツに親しむ習慣の確立や体力づくりに取り組み、たくましく健やかな身体を育みます。また、子どもから高齢者まで、だれもが豊かで充実した生活を送ることができるよう、市民が生涯にわたってスポーツに取り組むことのできる環境づくりを進めます。 食育は、生きるうえでの基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるものであることから、子どもたちが、自然の恩恵や「食」に関わる人々への感謝、理解を深めるとともに「食」に関する適切な判断力を身に付けることを目指します。

主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
	朝食を毎日食べる児童の割合＜小学校＞	%	97.8 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	93.6%	R6	100	R6
	朝食を毎日食べる生徒の割合＜中学校＞	%	91.1 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	92.7%	R6	95%以上	R6
	平日、午前7時より前に起きる児童の割合＜小学校＞	%	88.4 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R6	100	R6
	平日、午前7時より前に起きる生徒の割合＜中学校＞	%	77.2 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R6	95%以上	R6

	目標指標	単位	計画作成時	年度	実績値（現状）	年度	目標値	年度
主な目標指標	平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合＜小学校＞	%	91.6 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R6	100	R6
	平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合＜中学校＞	%	45.0 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R6	90%以上	R6
	小学生(5年生)の体力テスト全国平均以上	種目	8種目中7種目	H25	8種目中6種目	R6	全種目	R6
	中学生(2年生)の体力テスト全国平均以上	種目	8種目中4種目	H25	8種目中2種目	R6	全種目	R6
	成人の週1回以上のスポーツ実施率	%	21.6 市民アンケート調査結果	H24	32.9%	R6	65.0 (国の目標)	R6
	京都府民総合体育大会入賞競技数	競技	6 京都府民総合体育大会結果	H25	7	R6	10	R6
	公共スポーツ施設の利用回数	回	11,253 公共施設利用状況調査結果	H24	15,303	R6	14,000	R6
	スポーツイベント参加者数	人	－	R1	12,732	R6	18,600	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK ACT

進捗状況区分	評価	令和6年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる ○ 予定どおり進んでいる ▲ 少し遅れている × 大幅に遅れている	○	**《朝食を毎日食べる児童生徒の割合》** 朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、小学校で減少、中学生では維持という結果であった。継続して高い水準で推移している。各校園における家庭向けの啓発及び児童生徒への丁寧な指導により確実に定着してきているが、朝食を食べていない児童生徒がいることにも注視したい。今後も保護者との連携を更に密にし、子どもの健やかな成長に食事は欠かせないものであることを啓発していくとともに、学校においては、家庭科の授業や食育指導を引き続き推進し、児童生徒自らが、食生活の改善を図っていける力の育成に努めていく。 **《平日、午前７時より前に起きる児童生徒の割合》** 全国学力・学習状況調査及び京都府学力・学習状況調査（学びのパスポート）の児童生徒質問項目から外れたためデータなし。 **《平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合》** 全国学力・学習状況調査及び京都府学力・学習状況調査（学びのパスポート）の児童生徒質問項目から外れたためデータなし。 **《小学生（５年生）の体力テスト全国平均以上》** 令和6年度は、男女ともに、上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げが全国平均を上回った。男子は、立ち幅跳びが上回った。握力、長座体前屈の筋力、筋持久力、柔軟性を図る項目が全国平均を下回った。 引き続き、体育科を含む各校の教育活動全体を通した体力づくりの取組等により、意識的に課題のある筋力・柔軟性などの運動能力について克服していく必要がある。 **《中学生（２年生）の体力テスト全国平均以上》** 令和6年度は、反復横跳び、20mシャトルランが男女ともに全国平均を上回った。女子については、持久走、50m走も上回っている。握力、上体起こし、長座体前屈、ハンドボール投げなどの筋力、柔軟性、投力を図る項目が全国平均を下回った。 引き続き、体育科を含む各校の教育活動全体を通した体力づくりの取組等により、意識的に課題のある筋力・柔軟性などの運動能力について克服していく必要がある。 **《成人の週１回以上のスポーツ実施率》** 徐々に地域での社会体育の取組を進めつつあるが、コロナ渦以前の実施状況には戻っていない。健康増進と体力の向上を図るためスポーツ推進委員が中心となって開催する地域でのニュースポーツ教室やノルディックウォーキング教室等を開催し、参加者を増やす工夫が必要である。 **《京都府民総合体育大会入賞競技数》** 令和5年度から、法人化した市スポーツ協会が本格的に運営を開始した。新型コロナウイルス感染症も落ち着き、7競技が入賞を果たした。今後も競技力の向上を目指し、入賞競技数の増を目指す。また、将来性を有するジュニアアスリートを養成する支援体制を整えることが重要である。

		令和6年度成果と今後の課題
		《公共スポーツ施設の利用回数》 令和4年度の無料開放時は、多くの利用があったが、無料開放が終了した今年度については、利用回数が少し減少したが、コロナ渦以前の水準に比べると増加している。 今後は、公共施設の見直し計画による施設の集約化や指定管理者制度の導入等、より市民のニーズに則した施設環境づくりとスポーツ機会の提供が求められる。 **《スポーツイベント参加者数》** 令和5年度については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、予定していたスポーツイベントは、すべて開催することができ、スポーツ観光のまちづくりを推進するためのスポーツができる環境を提供することができた。今後も引き続き、各種イベントについて、地域資源を取り入れながら、参加者増と地域活性を図る必要がある。

5. 今後の施策展開の考え方（令和6年度での主な取組）

ACT

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	子どもたちの基本的な生活習慣を確立させるため、学校園が連携し、発達段階に応じた指導を継続するとともに、丹後学を通じた学習や、地産地消・給食指導など、家庭、地域と連携した食育の取組を更に推進する。
	2	市民のニーズに合ったスポーツの推進や、各地区の事業やPTA活動への協力を行うなど、関係団体等と連携しながら、多くの人がスポーツに親しめる機会を設ける。
	3	京丹後市スポーツ協会の更なる組織強化や事業充実等に向けた支援を継続し、各種スポーツ大会の実施や府民総合体育大会への出場選手の拡大を図り、競技力の向上を目指す。
	4	市内には多くの社会体育施設が点在しているが、地域の大切なコミュニティの場としての役割も大きいため、計画的な施設の修繕を実施する一方、利用が少ない施設の維持管理などについて見直しを行う。
	5	交流人口の増加等、地域活性化を図るため、事業効果の高いスポーツイベントを推進するとともに、WMG関西に向けた準備や取組を推進する。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	3,284千円	3,400千円	116千円	96.5 %	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	02 ｽﾎﾟｰﾂ推進費				3,641千円		
	事業	01 ｽﾎﾟｰﾂ推進委員活動事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

市民にスポーツに関する指導及び助言を行うスポーツ推進委員を委嘱し、本市のスポーツ振興を図る。
また、スポーツ推進委員の資質向上のため、各種研修会や研究大会に参加する。

主な財源

主要な事務・事業の概要

○スポーツ推進委員報酬（50千円×48人）	2,446千円
（1人は5月1日就任のため、月割りとし46千円）	
○旅費（スポーツ推進委員活動費用弁償、職員旅費）	524千円
○需用費（消耗品費等）	67千円
・機関誌購読料、広報用カラーペーパー	
○役務費（スポーツ安全保険料49人分）	86千円
○委託料（バス運転委託料）	80千円
・京都府スポーツ推進委員研究大会（舞鶴市）	
・近畿スポーツ推進委員研究協議会（京都市）	
○使用料及び賃借料（有料道路通行料、駐車場使用料）	14千円
○負担金、補助及び交付金	67千円
・丹後スポーツ推進委員連絡協議会負担金	44千円
・近畿スポーツ推進委員研究協議会参加負担金	23千円

＜活動内容＞
- ノルディック･ウォーキング体験会
  年間8回、延べ184人参加
- ニュースポーツ体験会（ビーチボールバレー、モルックほか）
  年間95回、延べ1,025人参加
- 地区活動やPTA行事、高齢者大学などにおけるスポーツ指導
  （ノルディック･ウォーキング、モルック、体力テストほか）
- スポーツ大会への協力（ウルトラマラソン、丹後大学駅伝ほか）

成果・課題

○ノルディック・ウォーキング体験会、ビーチボールバレー、モルックなどのニュースポーツの普及に努め、幅広い年代の方へスポーツへの参加機会を提供することができた。
○今後も、スポーツへの参加機会の提供だけでなく、地域において、スポーツ指導をする場を設けられるよう、新たなコミュニティ組織と連携する必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
	款	10 教育費	4,244千円	4,362千円	118千円	97.2 %	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	01 保健体育総務費				3,983千円		
	事業	50 保健体育総務一般経費						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

スポーツ基本法に基づいて設置するスポーツ推進審議会を運営し、市民の意見を反映したスポーツ活動の推進を図る。
また、社会体育事業を円滑に実施するための事務経費のほか、全国大会等出場者激励会の開催や懸垂幕を設置するなど、優れた成績を収めた選手を讃え、スポーツ推進の機運を高める。

主な財源

主要な事務・事業の概要

○スポーツ推進審議会に関する経費	47千円
・審議会委員報酬：12人、開催回数：1回	40千円
・費用弁償	7千円
○第2次京丹後市スポーツ推進計画冊子印刷経費	208千円
・A4版･77頁、200部作製	
○会計年度任用職員任用経費	3,697千円
（スポーツ推進室事務補助：1人）	
○社会体育に関する事務経費	243千円
・全国大会等出場懸垂幕作成経費	
○公用車事故関連経費（車両運搬手数料、見積書作成手数料）	49千円

成果・課題

○「第2次京丹後市スポーツ推進計画」の進捗状況の管理や審議を行い、市民の意見を反映したスポーツ環境の整備やスポーツ活動の推進を図ることができた。
○今後は、計画に掲げた基本目標及び目標値の実現に向けて、施策を推進する必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	7,289千円	7,347千円	58千円	99.2 %		
	項	05 保健体育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	02 ｽﾎﾟｰﾂ推進費				6,281千円		
	事業	02 地域ｽﾎﾟｰﾂ推進事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

市民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を送ることができるよう、体力の向上や健康づくり等、年代や目的に応じて気軽に親しめるスポーツ機会を提供するほか、市総合スポーツ大会の開催、京都府民総合体育大会への出場を支援する等、スポーツ人口の拡大とスポーツを通した交流機会を確保する。

主な財源

府補	きょうと地域連携交付金（ｽﾎﾟｰﾂｲﾍﾞﾝﾄ推進事業）	2,700千円
繰入金	韓哲･まちづくり夢基金繰入金	238千円
諸収入	ｽﾎﾟｰﾂ大会参加料	8千円

主要な事務・事業の概要

○報償費 （はしうど杯卓球選手権大会審判員謝金等）	23千円
○旅費	3千円
○需用費（消耗品費、食糧費）	280千円
○委託料	1,239千円
・市長杯争奪中学校野球大会開催委託料	100千円
・ジュニアカヌースプリント大会運営委託料	828千円
・京丹後市民陸上記録会運営委託料	300千円
・衛星放送アンテナ設置作業委託料	11千円
○使用料及び賃借料（会場使用料、有料道路通行料）	46千円
○補助金	4,320千円
・京都府民総合体育大会派遣費補助金	1,500千円
・京丹後市総合スポーツ大会開催補助金	2,820千円
○野村克也メモリアル事業	1,378千円
・野村克也講演会に係る講師謝金（赤星憲広氏、山田雅人氏）	885千円
・野村克也講演会開催経費（消耗品費、食糧費、印刷製本費、会場使用料等）	143千円
・野村克也杯学童野球大会実行委員会補助金 令和6年8月に開催、参加者17チーム・280人	350千円

＜大会等実施状況＞

大　会　名	開催日	参加者等
京丹後市総合スポーツ大会	5/12～2/23	13競技、1,027人
京都府民総合体育大会	8月～2月	14競技参加、入賞7競技
ジュニアカヌースプリント春季大会	5/18(土)	33人
北近畿中学生ソフトテニス大会	6/2(日)	6市2町14校　64ペア
京丹後市民陸上記録会	6/30(日)	110人
市長杯争奪中学校野球大会	7/6(土)、7(日)	市内5校
パリオリンピックパブリックビューイング	8/9～8/11	延べ200人
ジュニアカヌースプリント秋季大会	10/20(日)	荒天につき中止
はしうど杯卓球選手権大会	12/7(土)	1市1町、7校、75人
野村克也講演会	12/14(土)	400人

成果・課題

市民が気軽に参加できるスポーツ事業の実施及びスポーツ大会への支援をすることにより、市民の健康・体力づくりやスポーツを通した住民間・地域間の交流機会の提供、地域の活性化に寄与した。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	19,290千円	19,290千円	0千円	100.0 %		
	項	05 保健体育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	01 保健体育総務費				19,290千円		
	事業	01 社会体育団体育成事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

市民へのスポーツの普及と振興を図るため、中核的な役割を担う（一社）京丹後市スポーツ協会の活動を支援する。
また、京丹後市青少年スポーツ協会の活動及び子どもスポーツ推進事業を支援することで、青少年の健全育成と体力の向上を図る。

主な財源

主要な事務・事業の概要

○（一社）京丹後市スポーツ協会活動補助金　15,727千円
- 加盟団体数：18団体（2,125人）　※令和7年3月末現在
- 各種事業の実施
  - スキルアップ研修会の開催（令和6年7月24日、令和7年2月21日）
  - 各競技団体の活動支援（年間）
  - スポーツ講演会の実施（令和7年3月15日）
- 市主催事業への協力（ウルトラマラソン、丹後大学駅伝）
- 広報紙の発行（年3回）

○京丹後市青少年スポーツ協会活動補助金　3,563千円
- 加盟団体数：60団体（児童生徒数：1,352人、指導者数：338人）
- 事業内容：指導者研修会の開催、各加盟団体支援、募集チラシの発行

＜京丹後市青少年スポーツ協会　種目別加盟団体数＞

種　目	団体数	種　目	団体数	種　目	団体数
野　球	10	柔　道	1	卓　球	1
バレーボール	9	硬式テニス	2	複合(複数種目)	1
バスケットボール	6	ソフトテニス	2	カヌー	1
サッカー	6	バドミントン	2	レスリング	1
空手道	6	少林寺拳法	1	スキー	0
陸　上	5	新体操	1	合　計	60
剣　道	4	体　操	1		

※複合(複数種目)：年間を通じて、さまざまな種目のスポーツを実施する団体

成果・課題

○スポーツ団体の組織強化を支援することにより、スポーツ団体が実施する各種教室及び大会などを通して、幅広い年代層へスポーツに親しむ機会を提供することができた。
○京丹後市青少年スポーツ協会の加盟団体への活動助成金の交付や指導者研修会を開催し青少年のスポーツを通じた健全育成を支援した。
○一般社団法人へ組織変更から2年が経過した市スポーツ協会について、組織強化及び発展的な活動・運営となるよう引き続き支援する必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	61,901千円	119,292千円	57,391千円	51.8 %		
	項	05 保健体育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	03 体育施設費				44,367千円		
	事業	01 体育施設管理運営事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

主な財源		
使用料	社会体育施設使用料	1,427千円
使用料	公有財産使用料	122千円
諸収入	学校跡施設光熱水費利用負担金	594千円
諸収入	学校跡施設点検費用等負担金	112千円
諸収入	大宮社会体育館光熱水費利用負担金	53千円
市債	社会体育施設整備事業債（合併特例債）	7,300千円

目的

市民が生涯にわたって、心身ともに健康で文化的な生活を送ることができるよう、スポーツ活動やレクリエレーション活動の拠点となる社会体育施設の維持管理等を行う。

主要な事務・事業の概要

＜社会体育施設の維持管理経費＞

- ○需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費、修繕料） 30,755千円
- ○役務費（通信運搬費、し尿汲取、浄化槽法定検査手数料等） 715千円
- ○委託料（運動公園管理、社会体育館管理、浄化槽維持管理等） 16,162千円
- ○工事設計委託料 7,821千円
  - （社会体育館トイレ改修、久美浜中央運動公園トイレ洋式化）
- ○使用料及び賃借料（土地借上、仮設トイレ借上、AED賃借料） 1,031千円
- ○工事請負費 5,379千円
  - ・吉野体育館高圧ケーブル等改修工事 2,706千円
  - ・丹波体育館高圧ケーブル配管敷設替工事 1,595千円
  - ・豊栄山村広場沈砂池浚渫工事 1,078千円
- ○備品購入費（体育館用掃除機） 34千円
- ○施設使用料返還金 4千円

参考		
	繰越明許費を除いた最終予算額	62,020千円
	実質的な予算執行率	99.8%

■令和7年度への繰越事業 57,272千円

- ・社会体育館トイレ改修工事（令和7年10月完了予定） 44,693千円
- ・久美浜中央運動公園トイレ洋式化工事（令和7年10月完了予定） 12,579千円

＜利用状況＞

紅葉ヶ丘運動場（テニスコート）	224件
大宮自然運動公園（グラウンド、テニスコート）	439件
大宮社会体育館	1,144件
網野グラウンド（グラウンド、ゲートボール場）	595件
網野体育センター（体育室、柔・剣道室、テニスコート）	1,749件
丹後社会体育館	359件
弥栄総合運動公園（体育館、グラウンド、ゲートボール場）	1,509件
久美浜中央運動公園（グラウンド、テニスコート、ゲートボール場）	1,258件
その他体育施設（26施設）	5,030件
合　計（43施設）	12,307件

成果・課題

○施設の適切な管理運営を行うことで、市民のスポーツ活動の普及・発展に寄与した。
○施設の効率的・効果的な管理運営を図るため、公共施設等見直し計画に基づき、管理形態の見直し等について検討していく必要がある。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	1,390千円	1,471千円	81千円	94.4 %		
	項	05 保健体育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	03 体育施設費				1,471千円		
	事業	02 社会体育用学校開放施設管理運営事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

主な財源		
使用料	小学校施設使用料	230千円
使用料	中学校施設使用料	211千円

目的

地域の身近な施設である学校体育施設を開放及び維持管理することにより、市民のレクリエーション活動や各種サークル活動、青少年スポーツ教室、各種スポーツ競技団体の活動等の促進を図る。

主要な事務・事業の概要

＜利用状況＞ （単位：施設・件）

			峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	合計
小学校	体育館	施設数	4	2	4	2	1	3	16
		利用件数	1134	682	731	298	199	522	3566
	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	施設数	4	2	4	2	1	3	16
		利用件数	671	236	628	130	275	79	2019
	格技場	施設数			2				2
		利用件数			309				309
中学校	体育館	施設数	2	1	1	2	1	1	8
		利用件数	603	301	186	47	313	204	1654
	ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	施設数	1	1	1	1	1	1	6
		利用件数	18	241	125	47	162	50	643
	格技場	施設数		1	1	1	1	1	5
		利用件数		151	27	251	301	89	819
合計						施設数 53		利用件数 9,010	

（参考）社会体育用開放施設　＜全22校＞
小学校（全16校）
中学校（全6校）

- ○需用費 1,096千円
  - ・消耗品費（ベクトランコード、バレーボール支柱） 72千円
  - ・印刷製本費（利用申請書） 128千円
  - ・修繕料（屋外照明灯取替等） 378千円
  - 【所管：教育総務課】
  - ・修繕料（屋内照明灯取替等） 518千円
- ○役務費 294千円
  - ・支障物撤去手数料（大宮中学校カラスの巣撤去） 48千円
  - 【所管：教育総務課】
  - ・漏水調査手数料（旧吉野小学校） 242千円
  - ・ごみ持ち込み手数料 4千円

成果・課題

○施設の計画的な維持管理に努め、市民のスポーツ・レクリエーション活動の場として提供することにより、市民が楽しみともにつくるスポーツの街づくりに寄与した。
○施設数は減少したが、利用件数は増えているため、多くの市民に活用いただけている。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	2,035千円	2,071千円	36千円	98.2 %		
	項	05 保健体育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	03 体育施設費				2,233千円		
	事業	03 久美浜湾ｶﾇｰｾﾝﾀｰ管理運営事業						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実						

目的

豊かな自然の中で、カヌーを通して市民のスポーツ及びレクリエーションの振興を図り、心身の健康づくりに資するとともに、本市のスポーツ活動の拠点の一つとして地域の活性化に資するため、カヌーセンターの管理運営を行う。

主な財源

使用料	ｶﾇｰｾﾝﾀｰ使用料	472千円

主要な事務・事業の概要

○需用費	1,152千円
・消耗品費、燃料費、光熱水費	415千円
・修繕料	737千円
（ゴールブイ、カタマラン艇船体修繕、シャワー室LSD扉補修）	
○役務費	2千円
・計量器検定手数料	2千円
○委託料	881千円
・カヌーセンター管理業務	427千円
・施設運搬作業（浮桟橋避難）	126千円
・消防設備等保守点検業務	44千円
・設備保守管理業務（浮桟橋、カタマラン）	284千円

成果・課題

施設の適切な管理運営を行うとともに、全国大会の開催など、カヌーセンターを拠点として本市のスポーツ活動の普及・発展に寄与した。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	建設部
	款	08 土木費	92,459千円	92,500千円	41千円	99.9 %		
	項	04 都市計画費				(参考)当初予算額	課	都市計画・建築住宅課
	目	03 都市公園費				90,526千円		
	事業	01 都市公園等維持整備事業【再掲】						
基本計画		12 快適な都市空間の形成						

目的

都市公園を適正に維持管理し、市民が快適で安全・安心に利用できるようにする。

主な財源

市債	過疎地域持続的発展特別事業債（過疎債ｿﾌﾄ）	27,000千円
市債	都市公園整備事業債（過疎債）	23,400千円

主要な事務・事業の概要

○八丁浜シーサイドパーク維持管理経費	31,251千円
【所管：都市計画・建築住宅課】	
・指定管理委託料	15,008千円
NPO法人網野スポーツクラブ（令和2年度～令和6年度）	
・小浜地区トイレ下水道接続工事	
工事請負費、監理委託	10,436千円
その他（汚泥引抜、下水道加入分担金）	1,748千円
・海浜地区西側トイレ下水道接続工事実施設計	
工事設計委託	2,407千円
・修繕料（こども広場排水修繕）	1,652千円

（参考）都市公園利用状況

施設名	利用者数
八丁浜シーサイドパーク	28,757人
八丁浜有料駐車場	7,803台
峰山途中ケ丘公園	22,370人
峰山総合公園	26,868人

○峰山途中ケ丘公園・峰山総合公園維持管理経費	61,208千円
【所管：生涯学習課】	
・指定管理委託料	44,812千円
（公財）京丹後市公園緑化事業団（令和3年度～令和7年度）	
・修繕（峰山途中ケ丘公園：遊具、峰山総合公園：ｽﾎﾟｰﾂﾙｲﾚ）	2,190千円
・施設維持工事（峰山総合公園空調設備更新　ほか）	3,600千円
・備品購入費（峰山途中ケ丘公園陸上競技備品）	1,246千円
・峰山途中ケ丘公園東側駐車場整備	
工事設計委託	7,807千円
用地購入（196㎡）	603千円
登記委託	747千円
【所管：都市計画・建築住宅課】	
・用地賃借料（借上面積：1,995㎡）	203千円

成果・課題

○都市公園の維持管理を適正に実施し、利用者の安全で安心な利用に資することができた。
○トイレ下水道接続や、こども広場排水修繕、遊具修繕、空調更新などを実施し、利用者の安全性や利便性を確保した。
○峰山途中ケ丘公園の駐車場関係用地を購入し設計等を行った。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	08 土木費		5,962千円	6,500千円	538千円	91.7 %	部	建設部
項	04 都市計画費					(参考)繰越予算額	課	都市計画・建築住宅課
目	03 都市公園費					6,500千円		
事業	01 都市公園等維持整備事業（繰越）【再掲】							
基本計画	12 快適な都市空間の形成							
目的	都市公園を適正に維持管理し、市民が快適で安全・安心に利用できるようにする。							

主な財源		
市債	都市公園整備事業債（合併特例債）	5,600千円

主要な事務・事業の概要

○峰山途中ケ丘公園・峰山総合公園維持管理経費　5,962千円

【所管：生涯学習課】

・峰山途中ケ丘公園東側駐車場修正設計委託　5,962千円

成果・課題

東側駐車場整備のための修正設計を行い、詳細設計につなげた。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率		
款	10 教育費		7,744千円	7,843千円	99千円	98.7 %	部	教育委員会事務局
項	05 保健体育費					(参考)当初予算額	課	生涯学習課
目	02 ｽﾎﾟｰﾂ推進費					5,148千円		
事業	03 ｽﾎﾟｰﾂｲﾍﾞﾝﾄ推進事業							
基本計画	04 滞在型観光・スポーツ観光の促進							
目的	観光分野と連携し、各種スポーツイベントの開催を支援することで、スポーツを通じた本市の魅力を発信し、交流人口の増加を図る。							

主な財源		
府補	きょうと地域連携交付金（ｽﾎﾟｰﾂｲﾍﾞﾝﾄ推進事業）	1,600千円
寄附金	ふるさと応援寄附金	2,470千円
諸収入	地方公共団体ｽﾎﾟｰﾂ活動助成金（ｽﾎﾟｰﾂ振興くじ助成金）	1,360千円
諸収入	市有自動車損害共済金	221千円

主要な事務・事業の概要

＜スポーツイベントの実施状況等＞

イベント名	開催日程	会　場	参加者等	関係予算（負担金・補助金）執行内容	
パラカヌーサポーター講習会	7/6(土)	久美浜湾	18人	講師謝金（2人分）	155千円
京丹後市ドラゴンカヌー選手権大会	8/4(日)	久美浜湾	94チーム、1,109人	実行委員会への補助金	1,700千円
第22回丹後100ｋｍウルトラマラソン	9/14(日)	京丹後市内	2,568人	実行委員会への補助金	200千円
				バス運転委託料	748千円
丹後大学駅伝（第86回関西学生対校駅伝競走大会）	11/16(土)	丹後地域	22チーム、331人	後援会への負担金	600千円
				大会特別企画事業補助金	2,470千円
第58回久美浜湾一周駅伝競走大会	11/23(土・祝)	久美浜湾周辺	44チーム、321人	大会運営委託料	1,270千円
				バス運転委託料	73千円
パラスポーツ体験会	12/22(土)	大宮	79人	講師謝金（4人分）	128千円
合　　計			4,426人		7,344千円

○その他経費　400 千円

・消耗品費　10 千円

・燃料費（丹後大学駅伝）　46 千円

・公用車修繕経費　344 千円

成果・課題

○年間を通じて、各種大会を実施し、参加者のほか、応援者、関係者等含め多くの参加者を得て、地域における経済効果及び市の魅力発信を図ることができた。

○第86回目を迎えた丹後大学駅伝では、前年度に続きガバメントクラウドファンディングにより、青山学院大学がオープン参加した。また、地上波でのテレビ放送も行われ、中継所やフィニッシュ地点では、小中学生による応援や吹奏楽で盛り上げ、丹後地域を広くPRすることができた。

予算科目			本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	款	10 教育費	2,182千円	2,206千円	24千円	98.9 %		
	項	05 保健体育費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	目	02 ｽﾎﾟｰﾂ推進費				2,864千円		
	事業	04 ﾜｰﾙﾄﾞﾏｽﾀｰｽﾞｹﾞｰﾑｽﾞ関西推進事業						
基本計画		04 滞在型観光・スポーツ観光の促進						

主な財源		
府補	きょうと地域連携交付金（ｽﾎﾟｰﾂｲﾍﾞﾝﾄ推進事業）	600千円
諸収入	地方公共団体ｽﾎﾟｰﾂ活動助成金（ｽﾎﾟｰﾂ振興くじ助成金）	639千円

目的

ワールドマスターズゲームズ関西（WMG）関連事業開催を推進し、本市のスポーツツーリズムやインバウンドの増加、障害者スポーツの基盤づくり、スポーツによる地域の活性化を図る。

主要な事務・事業の概要

○普通旅費　10千円

○有料道路通行料　14千円

○WMG関西京丹後市実行委員会運営補助金　208千円

WMG2027関西の開催に向け、大会運営に必要な基盤整備を行うため、実行委員会の開催や、大会の周知・啓発に係る事業を対象

○日本カヌーマラソン選手権大会運営補助金　1,220千円

＜令和6年度日本カヌーマラソン選手権大会＞

・開催日：令和6年5月12日（金）～14日（日）

・参加者数：280人

・会場：久美浜湾カヌー競技場

○SUPジャパンオープン補助金　730千円

＜SUP2024ジャパンオープン＞

・開催日：令和6年4月13日（土）、14日（日）

※13日（土）は、SUP無料体験会を実施

・参加者数：89人　※無料体験会　43人

・会場：久美浜湾カヌー競技場

成果・課題

○WMGプレ大会（SUP、カヌーマラソン）を開催し、本大会に向けての競技運営に必要な運営体制等について確認することができ、今後の大会・合宿誘致に向けてノウハウを得られた。

○2027年5月に開催するWMG本大会の知名度の向上と機運醸成に向けた取組を展開していく必要がある。